

1 維管束植物

1-1 シダ植物



タニヘゴ 2018年4月30日 多古光湿原 谷城勝弘

1 千葉県のシダ植物

千葉県のシダ植物相については、種子植物を含めた維管束植物の植物相として記録されることが多い。これまでに刊行された千葉県の維管束植物の目録の主要なものうち、1932年の与世里盛春の目録では93種類、1975年の新版千葉県植物誌では188種類、1995年のチェックリストでは241種類、2003年の千葉県植物誌（県史自然編）では251種類が掲載されている。

千葉県に産するシダ植物の総種数については、これまでに刊行された千葉県の維管束植物に関連する主要な目録である与世里（1932）、千葉県生物学会（1975）、千葉県史料研究財団（2003）、千葉県レッドデータブック改訂委員会（編）（2009）、千葉県環境生活部自然保護課（編）（2017）及び、近年の新産地報告情報を網羅している日本シダの会会報をもとにすると、現在までに28科64属309種類（8亜種、29変種、11品種、59雑種含む）が報告されており、今回の改訂が県内初記録の報告となる2種を加えると311種類となる。しかし、これらのリストはすべて標本に基づいているわけではなく、同定の間違いや産地の記載間違いなどの可能性があるほか、分類の見直しなどにより、これまでの1種として扱ってきたものが複数種に細分化されたものもあり、詳細な調査を実施することで、標本から新産種を見出すことができるかもしれない。

また、県内の継続的な調査によって、更なる新産種が発見される可能性がある。今回の改訂では、15種^{*}のシダ植物を新たに掲載したが、これらの多くは、改訂に携わった委員のみならず、県内のシダ植物に精通した人々による継続的かつ入念な日々の調査があってこそのものである。未だ県北部や房総丘陵南部では未調査の地域もあり、千葉県のシダ植物相の全容の解明には至っていない。今後も引き続き、野外調査を実施していくとともに、博物館等に収蔵された資料の精査も必要不可欠である。

^{*} 2009年版のレッドデータブック、2017年レッドリストにおいてミヤマメシダとして掲載していたものについて、標本を再同定した結果、エゾメシダであることが判明した。2023年改訂版ではミヤマメシダは削除し、エゾメシダを新規掲載種として扱うこととした。

2 選定対象種

次の要件を満たすシダ植物を選定対象とした。

- ・評価対象とする単位は、種、亜種、変種、品種及び雑種。
- ・海老原（2016,2017）に記載のあるもの。
- ・報告の基になった文献あるいは証拠標本が明らかなもの。
- ・千葉県の在来種。国内外からの外来種は除いた。
- ・なお、シダ植物においては、生物多様性の維持の観点や、過去の生物相を解明する上で重要であることから、一部の雑種を保護上重要な雑種として定義し、生育状況

や保護対策について考察した。

3 選定基準及び評価方法

選定にあたっては、まず千葉県のシダ植物の現状を、できるかぎり正確に把握することを目的として、これまでに存在する千葉県内のシダ植物の分布に関する情報を収集した。2009年版のレッドデータブックに使用した情報に加えて、それ以降、新たに蓄積された情報を追加した。情報は正確度の高い順に、植物標本、写真（同定に必要な情報を含む写真）、文献（学術文献、地域フロラ、植生調査の報告、環境アセスメントの報告書などを含む）、野外調査記録、聞き取り情報などである。これらのデータの種類ごとの分布情報の地理的位置を3次メッシュ（1/25000地形図の縦横を、それぞれ10等分して得られる100個のメッシュ、約1km四方）によって登録した。また情報収集の進展に伴い、情報の著しく不足している地域に対しては野外調査を実施した。現在までに収集されたデータ数はすべての種類のシダ植物で約10万、そのうちレッドデータブック掲載種にかかわるものが約9000である。保護すべき植物の選定基準としては、種類ごとに記録されたメッシュ数を、地理的広がり の程度を知る基礎とした。

ランクの評価は、環境省のレッドリスト判定基準における定量的要件（基準B）を参考にした。環境省の基準では、生育面積や生育個体数を判定の基準に用いているが、すべての種類のシダ植物において、現在生育している個体の数や生育の広がりを確認することは、きわめて困難である。また、過去に生育が確認された個体が現在も生存しているかを、全種において確認することも、きわめて難しい。そこで、今回の改訂にあたっては、生育個体数を3次メッシュ数と読み替えることとし、現在までに得られたデータからそれぞれの種類ごとに、メッシュ数を算出した。環境省の基準では、全国の面積をもとに各ランクの種の出現範囲や生育面積の基準を設定していることから、ここでは環境省の基準を参考にして、千葉県の面積から各ランクに判定するための基準となるメッシュ数を設定した。

千葉県において生育が確認されているシダ植物の全種類について、これまでに確認されたメッシュ数を算出した。メッシュ数を基本として、消息不明・絶滅[X]（50年以上野外での生育が確認されていない種）、最重要保護[A]（4メッシュ以下）、重要保護[B]（20メッシュ以下）、要保護[C]（40メッシュ以下）、一般保護[D]（100メッシュ以下）のランクに機械的に割り振りを実施した後、1種ずつ種の特性や現在の分布状況等を鑑み、ランクの調整を図った。例えば、ナチシダは、現在までに生育が確認されたメッシュ数ではBランクに該当するが、温暖化の影響等により近年分布域が拡大していることが明らかである

ことからCランクへ変更したほか、イワシロイノデのように過去の生育記録が多く、メッシュ数ではDランクに該当するものであっても、近年急速に個体数が減少していることが調査によって明らかになっている場合、Bランクへ変更するなど、各種において調整を図った。

4 保護を要するシダ植物の概要と保護対策

房総半島は、気候的に落葉広葉樹林帯と常緑広葉樹林帯の移行帯に位置しており、両植生帯の構成要素となる維管束植物がみられる。また、気候変動によって過去に分布した植物が現在においても残存種として点的に分布しているなど、そのフロアは興味深い。シダ植物の分布をみると、生育に好適な環境である沢沿いの斜面地などは、房総半島の南部の丘陵地を中心にみられるため種数が多いが、丘陵が無い下総台地では谷津田の二次林などに様々なシダ植物が生育しており、地域ごとに異なったシダ植物フロアがみられる。

千葉県における保護上重要なシダ植物の分布の特徴として

- 1 房総丘陵の森林内にのみに見られるもの
- 2 下総台地の湿地や二次林等に点在するもの
- 3 全国的な分布の北限・南限にあたるもの
- 4 全国的に生育量が少ない分類群のシダ植物

に大分できる。

房総丘陵の森林内にのみ見られるものの大部分は、君津市～鴨川市周辺の丘陵地の森林内や沢筋などに生育している。カラクサシダ、ミゾシダモドキ、イワヤナギシダなどがその代表で、県内でも非常に限られた産地が知られるだけである。一方、サトメシダ、ミドリカナワラビ、ワカナシダ、イヌイワイタシダなどは、房総丘陵の森林には生育が見られず、下総台地の湿地や二次林でのみ確認できる。千葉県における希少なシダ植物の分布は、房総丘陵に見られる型と下総台地に見られる型、あるいはこれらの両者に点在して見られるタイプ（タニイヌワラビやオウレンシダなど）がある。

千葉県のシダ植物相の特徴として房総丘陵が常緑樹林帯と落葉樹林帯の境界にあたることから、南方系シダ植物と北方系シダ植物の両者が生育しているという点が挙げられる。近年、温暖化の影響からか、ナチシダやオニヒカゲワラビをはじめとした、南方系シダ植物の分布が県内でも北上しているほか、リュウビンタイやウスバイシカグマといった南方系のシダ植物の生育が新たに確認されるようになった。その一方で、イワシロイノデやサカゲイノデなどは温暖化の影響か、過去生育していた個体が滅失するなど、分布範囲が狭まっているものも存在する。このような種は、過去の分布記録が多い場合、一見すると現在も多くの個体が生育しているように見られるが、実際の生育量は少ない

ことから、ランク付けなどには注意が必要である。

全国的に生育量が少ないシダ植物は、千葉県においても保護上重要である。シダ植物は孢子で繁殖するが、種によっては根茎を張り巡らせて分布を拡大する。このような種は、生育地が限られていても、一か所に多数生育することがあり、ただちに個体群の消滅を招く危険性が低い。一方で、根茎を張り巡らせない種では、個体数を増やすためには、孢子の発芽から新たな孢子体の形成が必要であるため、個体群の消滅が安易に起こりやすい。例えば、マツバランやイワヒバ、トキワトラノオや、イワトラノオといった岩などに着生して生育するシダ植物や、ハナヤスリの仲間などは保護の対策を優先的に講じる必要があると考えられる。

また、県南部を中心にシカやキョンなどの草食獣が増え、シダ植物の食害が問題になっている。これらの草食獣には嗜好性があり、保護を要するシダ植物の中でも、食害によって絶滅の危機が増加している種がある一方、食害の影響を受けずに分布を広げている種もある。保護対策を講じる上では、開発等による生育地の減少だけでなく、種によっては草食獣による食害の影響を考慮する必要がある。

5 情報不足種・絶滅の恐れのある地域個体群

遺伝子情報を用いた分類の発達により、形態に基づく分類では1種とされていたものに、複数種が含まれることが明らかになってきた。2009年の千葉県レッドデータブック及び2017年のレッドリストではハイホラゴケ (*Lacosteopsis orientalis* (C.Ch.) Nakaike) をCにランク付けしているが、かつてハイホラゴケと同定されていた個体の多くは、他種との雑種あるいは雑種起源系統であることが明らかになってきた (海老原 2017)。これまで採集されたハイホラゴケの標本は、形態に基づいて同定しており、遺伝子を用いた最新の分類をもとにしていないことから、今回の改訂にあたり、ハイホラゴケ (*Vandenboschia kalamocarpa* (Hayata) Ebihara) は情報不足として扱うこととし、ランク付けは行わないこととした。

また、ベニシダとナチクジャクの中間的形質をもつナンゴクベニシダ (*Dryopteris austrojaponensis* Sa.Kurata, nom. nud.) は、全国的に分布が認められ、本県においては君津市と鴨川市で生育が確認されているが、正式な記載がなされていない分類群であることから、本書では絶滅の恐れのある地域個体群として扱い、ランク付けはしないこととした。

6 記述様式

ランクの配列は、2009年版レッドデータブックの記述に準拠し、「X」、「A」、「B」、「C」、「D」、「RH」に分けた。各区分の中は、海老原 (2016,2017) の配列に従った。

学名は維管束植物和名チェックリスト ver. 1.10 (https://www.gbif.jp/v2/activities/wamei_checklist.html) に従い、文章中の記述では、種の特性として形態や近縁種との区別点及び生態を概略し、全国的な分布、県内の生育状況、保護対策について概説した。なお、種のより詳しい解説や、専門用語等については、海老原 (2016,2017) や岩槻 (1992) 等の参考文献を参照されたい。

7 引用文献

荒井智貴・館野太一 (2020) 千葉県新産のオオヒメワラビモドキ, 日本シダの会会報 4(36): 1

荒井智貴・館野太一 (2019) 千葉県でヒメクラマゴケを発見, 日本シダの会会報 4(33):17-18

千葉県 (1989) 千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書

千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編) (2009) 千葉県の保護上重要な野生生物ー千葉県レッドデータブックー植物・菌類編 2009 年改訂版. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉

千葉県環境生活部自然保護課 (編) (2017) 千葉県の保護上重要な野生生物ー千葉県レッドリストー植物・菌類編 < 2017 年改訂版> 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉

千葉県生物学会 (編) (1975) 新版千葉県植物誌, 井上書店, 東京. [略号: 千植誌 1975]

千葉県史料研究財団 (2003) 千葉県の自然誌 別編 4 千葉県植物誌, 千葉県. [略号: 千植誌 2003]

千葉県史料研究財団 (2005) 千葉県の自然誌 別編 2 千葉県植物写真集, 千葉県

千葉県生物学会 (編) (1958) 千葉県植物誌, 改訂新版千葉県植物誌, 千代田印刷, 東京 [略号: 千植誌 1958]

千葉県生物学会 (編) (2004) 改訂新版 千葉県植物ハンドブック. たけしま出版, 柏

海老原淳 (2016) 日本産シダ植物標準図鑑, 学研プラス, 東京

海老原淳 (2017) 日本産シダ植物標準図鑑 II, 学研プラス. 東京

市原植物研究会 (2001) 野草の友: 71

池畑怜伸 (2006) 写真でわかるシダ図鑑, トンボ出版, 大阪

伊藤至 (1970) 千葉県産イノデ類小記. 千葉生物誌 20(1): 14-24

伊藤至 (1970) 千葉県植物目録の追加, 千葉生物誌 20(1): 13-14

岩槻邦男 (編) (1992) 日本の野生植物シダ, 平凡社, 東京

神奈川県植物誌調査会 (編) (2001) 神奈川県植物誌 2001, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原

神奈川県植物誌調査会 (編) (2018) 神奈川県植物誌 2018, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原

木村研一 (2019) 千葉県でトキワトラノオを見つける, 日本シダの会会報 4(32):21-22

木村研一 (2020) 千葉県にハイコモチシダを見つける, 日本シダの会会報 4(37):10-11

木村研一・村田威夫・倉俣武男 (2018) 千葉県のリュウビンタイとウスバイシカグマ続報, 日本シダの会会報 4(29):21-23

木村研一・村田威夫・倉俣武男・宮崎卓 (2017) 千葉県にリュウビンタイ出現, 日本シダの会会報 4(26): 1-2

木村陽子他 (1997) 白浜自然環境保全地域の植物相, 千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書 平成 8 年度: 3-36

倉俣武男 (1993) 千葉県新産シダ報告. 日本シダの会会報 2(93): 17-18

倉俣武男 (2005) 下総佐倉シダノート (1) 日本シダの会会報 3(41): 19-21

倉俣武男 (1997) 千葉県産コタニワタリ事情, 日本シダの会会報 3(10): 8-10

倉俣武男 (2005) ノコギリヘラシダ考<千葉県産をも踏まえて>, 日本シダの会会報 3(41):11-15

倉俣武男 (2006) 下総佐倉シダノート (3) 日本シダの会会報 3(44): 1-2

倉俣武男 (2006) 千葉県初見イヌイワイタチシダ. 千葉県植物誌資料 21:170-171

倉俣武男 (2007) 下総佐倉シダノート (6) 日本シダの会会報 3(47): 8-10

倉俣武男 (2008) 下総佐倉シダノート (7) 日本シダの会会報 3(48):20-21

倉俣武男 (2020) オドリコカグマの北限・千葉県北部に達する, 日本シダの会会報 4(35):30-31

倉俣武男 (2021) 千葉県成田市にウスゲコバノイシカグマとその雑種を記録する, 日本シダの会会報 4(39):44-45

倉俣武男: 雑種 ウスバケクジャクフモトシダ (倉俣新称) (ウスバイシカグマ×ケブカフモトシダ) について, 日本シダの会会報 4(40):49-50

倉俣武男・木村陽子・和田求司 (2009) 千葉県産アカフユノハナワラビとアカハナワラビ, 千葉県植物誌資料 25: 243-245

倉俣武男・中池敏之 (1996) 佐倉市山崎で観察したシダ植物. 千葉県のシダを楽しむ会会報 8: 29

倉田悟 (1952) 千葉県内における温帯性植物の分布. 千葉県植物誌基礎資料 3(1): 10-15

倉田悟 (1958) シダ類ノート (15). 北陸の植物 7: 11-14

倉田悟 (1958) シダ類ノート (18) アマギイノデ. 北陸の植物 7(4): 114-115

倉田悟 (1958) シダ類ノート (18). 北陸の植物 7: 113-117

倉田悟 (1961) 日本のタニイヌワラビ類. 横須賀市博物館研究報告 6: 238-239

倉田悟 (1961) シダ類ノート (24). 北陸の植物 10: 66-71

倉田悟 (1962) シダ類ノート (27). 北陸の植物 11: 36-39

Kurata S. (1966) Note on Japanese Ferns (40). J.Geobot. 15(1-3): 2-8

倉田悟 (1978) 日本列島における南方系シダの北限. しだとこけ 11(1-4): 28-31

倉田悟・中池敏之 (編) (1981) 日本のシダ植物図鑑 2, 東京大学出版会, 東京

倉田悟・中池敏之 (編) (1979) 日本のシダ植物図鑑 1, 東京大学出版会, 東京

- 倉田悟・中池敏之（編）（1981）日本のシダ植物図鑑 3, 東京大学出版会, 東京
- 倉田悟・中池敏之（編）（1985）日本のシダ植物図鑑 4, 東京大学出版会, 東京
- 倉田悟・中池敏之（編）（1987）日本のシダ植物図鑑 5, 東京大学出版会, 東京
- 倉田悟・中池敏之（編）（1990）日本のシダ植物図鑑 6, 東京大学出版会, 東京
- 倉田悟・中池敏之（編）（1994）日本のシダ植物図鑑 7, 東京大学出版会, 東京
- 倉田悟・中池敏之（編）（1997）日本のシダ植物図鑑 8, 東京大学出版会, 東京
- 宮崎卓（2007）岐阜県におけるイヌイワイチシダの新産地. 岐阜県植物研究会誌 23:
- 宮崎卓（1992）千葉県長生郡長南町におけるカギカズラとギフベニシダの分布報告, 千葉生物誌 41(1) : 43-44
- 村田威夫・木村研一・倉俣武男・中村建爾（2017）ヒュウガシダ房州に, 日本シダの会会報 4(27):1-2
- 村田威夫・谷城勝弘（1995）オニイノデ千葉県に出現 日本シダの会会報 3(1) : 1-2
- 中池俊之（1996）千葉県でカラクサシダを見つけました, 日本シダの会会報 3(5) : 3-4
- 中池敏之（1997）千葉県をタイプロカリティーとするシダ植物の解説, 千葉県のシダを楽しむ会会報 16 : 85
- 中池敏之（1992）新日本植物誌シダ篇改訂増補版, 至文堂, 東京
- 中池敏之（1993）千葉にサキモリイヌワラビ, 日本シダの会会報 2(95-96) : 23
- 中池敏之（1995）千葉県をタイプロカリティーとするシダ植物の解説 5. キヨズミイノデ. 千葉県のシダを楽しむ会会報 5 : 17
- 中池敏之（1995）市原市市民の森のシダ植物. 千葉県のシダを楽しむ会会報 3 : 11-12
- 中池敏之（1997）千葉県産シダ植物のチェックリスト（5版）。千葉県のシダを楽しむ会会報 17 : 104-112
- 中池敏之（2003）シダの和名辞典, 羊子社出版部, 沼津.
- 中池敏之・山本明（1996）ホウビシダ、ナンゴクホウビシダの分布. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 4(1) : 27-32
- 中池敏之・山本明（1995）日本のナライシダ属の分布, 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 3(2) : 147-160
- 行方沼東（1953）アカハナワラビについて. 日本シダの会会報 1(4) : 3-4
- 行方沼東（1958）千葉県に於ける羊歯植物の分布. 千葉県植物誌 1958 : 199-208
- 行方沼東（1961）シダの採集と培養, 加島書店, 東京.
- 西田 誠・栗田子郎（1969）ハナヤスリ属の新種トネハナヤスリ. 植物研究雑誌 44(8): 247-255
- 大場達之・木村陽子（1998）タニヘゴが白井町で見つかった. 千葉県植物誌資料 11 : 77-78
- 大場達之・腰野文男・木村陽子（1995）トネハナヤスリ千葉県に健在. 千葉県植物誌資料3(7)
- 佐橋紀男（1983）日本および近隣産ハナヤスリ目の形態学的研究(8) 伊豆大島産オオハナワラビ属の新分類群, 植物研究雑誌58 : 240-247
- 佐倉市自然環境調査団（2000）佐倉市自然環境調査報告書Ⅱ 植物部門
- 志村義雄（1972）シダ植物生態写真集成, 採集と飼育の会, 東京
- 志村義雄（1984）故倉田悟先生が注目されたナンゴクベニシダ. レポート日本の植物 20: 195
- 田川基二（1974）原色日本シダ植物図鑑, 保育社, 大阪.
- 館野太一（2019）千葉県でコクモウクジャク *Diplazium virescens* Kunze の生育を確認日本シダの会会報 4(32):18-20
- 館野太一（2021）約60年ぶりに千葉県で再発見されたシシラン. 日本シダの会会報 4(39) : 42-43
- 館野太一・木村研一・宮崎卓（2020）千葉県館山市でハチジョウシダを発見, 日本シダの会会報 4(34):11
- 谷城勝弘（1987）千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書Ⅱ : 265-291
- 谷城勝弘（1987）千葉県北部のベニシダ類 2 種の産地, 日本シダの会会報 2(71-72) : 13
- 谷城勝弘（1988）千葉県東部におけるシダ生育地の新知見. 千葉生物誌 38(1) : 27-28
- 谷城勝弘（1988）暖地性シダの北限は千葉県北東部, 日本シダの会会報2(74) : 3-4
- 谷城勝弘（2004）山武町北東部のシダ植物, 千葉生物誌 54(2) : 33-44
- 谷城勝弘（2006）千葉県植物誌にイヌワカナシダとハガネイワヘゴを追加する, 千葉県植物誌資料 21:169-170
- Yashiro K. (2015) A New hybrid of *Arachniodes* (Dryopteridaceae) from Chiba Prefecture, Honshu, Central Japan. J. Jap. Bot. 90 (1) 34-38
- 谷城勝弘（2021）千葉県及び関東域のオシダ科. 千葉県植物研究所研究資料 : 42pp
- 谷城勝弘（2021）千葉県及び関東域のメシダ科. 千葉県植物研究所研究資料 : 7pp
- 谷城勝弘・森（2007）内浦山自然環境保全地域の植物相. 千葉県自然環境調査報告書 : 23-40
- 谷城勝弘・村田威夫（1986）コバノイシカグマ千葉県に出現. 日本シダの会会報2(66) : 9
- 谷城勝弘・村田威夫（2004）山武町北東部のシダ植物. 千葉生物誌 54(2) : 33-44
- 谷城勝弘・村田威夫（1987）下総スギ林にて. 千葉生物誌36(2) : 70-71
- 谷城勝弘・村田威夫（1987）千葉県下総東部のシダ植物Ⅱ, 日本シダの会会報 2(69) : 19-20
- 谷城勝弘（2022）千葉県のシケシダ類. 自然研究雑誌5:27-30
- 与世里盛春（編）（1932）千葉県の植物, 千葉県植物採集会, 成東

X イブキシダ ヒメシダ科

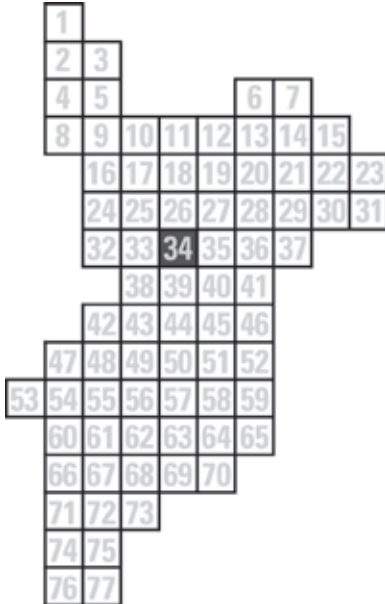
2009	X
2017	X
2023	X

Thelypteris esquirolii (H.Christ) Ching

【種の特性】常緑性。一般的には、林内や林縁の溪流や小さな流れに沿って生育する。[H]

【分布】本州（栃木県以西）・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、フィリピン、インド、ヒマラヤ。

【県内の状況】県内では、千葉市内の谷津に生育が知られていたが、1998 年になって開発のためにその谷津が埋められ、絶滅した。現在県内では、ほかの場所での生育は確認されていない。



【保護対策】千葉県はこの種のほぼ分布の東限であるが、栃木県にもごく稀に生育しているので、今後の再発見が期待される。

【文献】倉田・中池（編）1983 日本のシダ植物図鑑 3：540-548 / 千植誌 2003：26,41

【写真】1996.7 千葉市 標本：CBM BS-140136

（中池敏之／中村建爾 追補
／水野大樹）



X フクロシダ イワデンダ科

2009	X
2017	X
2023	X

Woodsia manchuriensis Hook.

【種の特性】夏緑性。根茎は短く塊状で、葉を叢生する。葉は 7～35 cm、葉身は 2 回羽状深裂し、やや狭い披針形で下部は狭くなる。孢子嚢群は裂片の辺縁よりにつく。包膜は白く孢子嚢群の受け皿となり、発達して孢子嚢群を包む。山地林下の岩上、または溪流近くや山道の崖地に生育する。[H]

【分布】北海道、本州、四国、九州。朝鮮、中国、ロシア東部。関東中部の生育適地では個体数も多く、群落をつくって生育している。

【県内の状況】県内では、古く県南部の鋸山で採集された記録があるが、その後記録がない。奥多摩・秩父では岩上に大群落を見かける。しかし県内には岩山が少なく、似たような環境が少ない。今後房総丘陵の林道に沿った崖地などに見いだされる可能性がある。さらなる調査により出現されることが期待される。



【保護対策】綺麗なシダであるので、園芸用に利用されることがあるが、再発見された場合は、採集をしないことが望ましい。再出現の可能性が考えられるので、房総丘陵の林道の拡張する場合は、植物調査を充分に行う必要がある。

【文献】千植誌 1958：445 / 新千植誌 1975：494 / 倉田・中池（編）1985 日本のシダ植物図鑑 4：806-814 / 岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：226 / 千植誌 2003：28,42

【写真】2008.9 東京都奥多摩町 村田威夫
（中池敏之／村田威夫 追補）



X エゾメシダ メシダ科

Athyrium brevifrons Nakai ex Tagawa

2009	
2017	
2023	X

【種の特性】夏緑性。根茎は斜上し、葉柄は葉身の 2/3 ～等長。鱗片は暗褐色で光沢がなく膜質、捻れない。[H]

【分布】北海道、本州（鳥取県以東）。ロシア（極東）、朝鮮、中国（北部）。

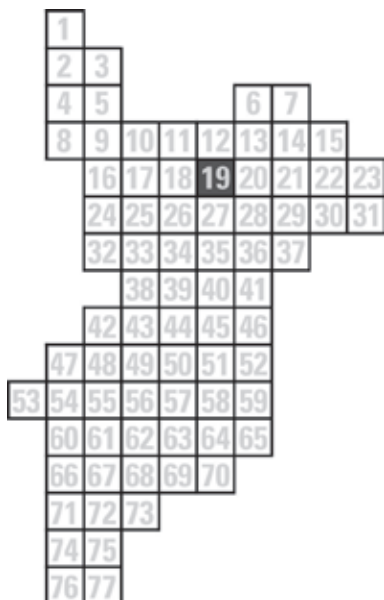
【県内の状況】1988 年、成田市の谷津奥のスギ林で長さ 1m 程の数枚の葉をつけた 1 株が確認された。1996 年にはマダケの侵入が顕著となり、当該の個体は消滅した。

【保護対策】旧生育地にはその微気象を反映して再出現する可能性があるので、周辺域を含めて環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：236 / 海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑 II：297

【写真】1988.7.26 成田市 谷城勝弘

（谷城勝弘）



X サキモリイヌワラビ メシダ科

Athyrium oblitescens Sa.Kurata

2009	X
2017	X
2023	X

【種の特性】常緑性。根茎はほぼ直立し葉を叢生する。葉柄は 20-40 cm で紅紫色を帯び、基部に暗褐色の鱗片をつける。葉身は 30-50 cm で卵状楕円形、2 回羽状複生、全体的にタニイヌワラビに似るが、羽片にはっきりした柄があり小羽片の先や耳片が丸みを帯びる。また葉質が厚ぼったい点が異なる。山地の林床に生じる。[H]

【分布】本州（秋田、石川県以西の日本海側、近畿地方）・四国・九州（福岡）。千葉県産は分布の東限。

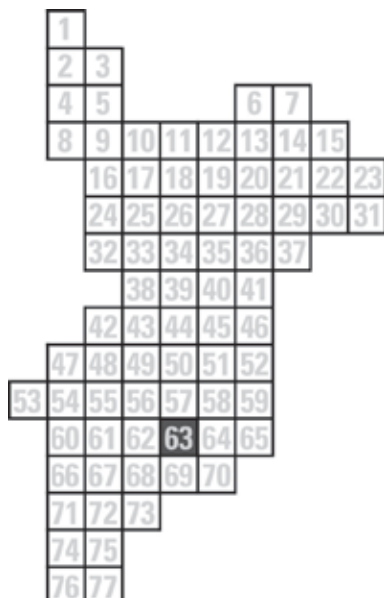
【県内の状況】1961 年に清澄山で採集された標本があるのみで、その後の存在はまだ確認されていない。

【保護対策】森林の保全が望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1990 日本のシダ植物図鑑 6：550-554 / 中池 1993 シダ会報 2(95・96)：23 / 千植誌 2003 52,70

【写真】1999 鳥取県鳥取自然休養林 中村建爾

（中村建爾／水野大樹）



X	ミヤマクマワラビ オシダ科	2009	X
		2017	X
		2023	X
<i>Dryopteris polylepis</i> (Franch. & Sav.) C.Ch.			

【種の特性】 夏緑性。オシダに似るが、葉はやや黒味があり、葉柄の鱗片は黒褐色。森林性（山地性）。[H]
【分布】 本州・四国・九州。台湾。
【県内の状況】 1987 年、多古町のスギ林で 1 株の生育が確認された。個体の葉身は 30cm 前後の小型のもので、4 ～ 5 年生育を維持したが、後に消滅した。林床には山地性のイワシロイノデやハクモウイノデの生育があり、特異な湿潤な微気候が成立した場所と考えられた。
【保護対策】 旧生育地はその微気候を反映して再び出現する可能性があるため、周辺も含め生育環境を良好に維持することが望ましい。
【文献】 谷城 1988 千葉県東部におけるシダ生育地の新発見 . 千生誌 38(1) : 7-28 / 倉田・中池（編）1997 日本のシダ植物図鑑 8 : 74 / 千植誌 2003 : 38 / 千植写真 2005 : 328.



【写真】 1987.7.28 多古町 谷城勝弘

(谷城勝弘)



X シノブカグマ オシダ科	2009	X
	2017	X
	2023	X
Arachniodes mutica (Franch. & Sav.) Ohw.		

【種の特性】 常緑性。葉柄、葉軸、羽軸に黒褐色の鱗片をもつ。葉は長三角形状。山地性。[H]
【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、ロシア東部。
【県内の状況】 1986 年に多古町のスギ林でやや萎縮した葉をつけた 1 株の生育が確認された。北向きの湿潤な斜面の下方に位置する生育箇所の周辺には南方系のイノデモドキ、メヤブソテツ、ナンゴクナライシダ、コバノイシカグマのほか、北方系のイワシロイノデなど県内では稀少の複数種の生育があった。1990 年には当該の株は消滅した。次いで、1987 年に佐倉市のスギ林で 1 株の生育が確認された。周囲には特筆すべき種の生育はなかったが、大きく成長した個体であった。2 年後に消滅した。
【保護対策】 旧生育地はその微気候を反映して再び出現する可能性があるため、周辺も含め生育環境を良好に維持することが望ましい。



【文献】 倉田・中池（編）1987 日本のシダ植物図鑑 5 : 442 / 谷城 1987 千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書 II : 265-291 / 谷城・村田 1987 下総スギ林にて . 千生誌 36(2) : 70-71 / 千植誌 2003: 49 / 千植写真 2005:328

【写真】 1986.6.8 多古町 谷城勝弘 (谷城勝弘)



X オニイノデ オシダ科

2009	X
2017	X
2023	X

Polystichum rigens Tagawa

【種の特性】常緑性。オオキヨズミシダに似るが、羽片は硬く、小羽片の先の刺は鋭い。葉柄の鱗片は幅広く、縁には著しい突起がある。[H]

【分布】本州（茨城県以西）。中国。

【県内の状況】1994年に成田市のスギ林で1個体が確認された（村田・谷城1995）。その後同地ではリョウメンシダが繁茂し、その群落に覆われて消滅した。

【保護対策】旧生育地にはその微気候を反映して再び出現する可能性があるので、周辺も含めて環境を良好に維持することが望ましい。



【文献】村田・谷城 1995 オニイノデ
千葉県に出現 シダ会報 3(1): 1-2
／倉田・中池（編）1997 日本のシ
ダ植物図鑑 8: 76 / 千植誌 2003:
30 / 千植写真 2005: 329

【写真】1994.11.23 成田市 標本:
CBM BS-303718

（谷城勝弘）



X カズサイノデ オシダ科

2009	X
2017	X
2023	X

Polystichum polyblepharon (Roem. ex Kunze) C.Presl f. *scabiosum* (Sa.Kurata) Seriz.

【種の特性】常緑性。イノデに似るが葉軸の鱗片は幅広く長卵形のものが混ざり、上向きに圧着する。君津市で1961年9月に採集された標本に基づいて記載した。[H]

【分布】本州（千葉県、静岡県）。

【県内の状況】基準標本産地の君津市を含めて、県内ではその後発見されていない。

【保護対策】詳細な調査により再発見される可能性がある。森林の自然環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】倉田 1962 シダ類ノート (27). 北陸の植物 11: 36-39 / 中池敏之 1997 千葉県をタイプロカリティーとするシダ植物の解説. 千葉県のシダを楽しむ会会報 16: 85 / 千植誌 2003: 31 / 千植写真 2005: 329

【写真】1962.9.17 君津市 標本: CBM BS-12019

（中池敏之／谷城勝弘 追捕）



A ヒメクラマゴケ イワヒバ科

Selaginella heterostachys Baker

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】常緑性で匍匐茎は冬に赤色を帯びる。匍匐茎の腹葉はやや密に開出してつき、やや不整の卵形で細鋸歯縁。背葉は左右相称の狭卵形、先端は長く伸びて反り返り、細鋸歯縁。胞子嚢穂は直立茎の側枝先端に1～2個が頂生し、胞子葉は2形となる。山野の路傍や岩崖に生育する。

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球列島（トカラ列島以北・西表島）。中国・台湾・ベトナム。

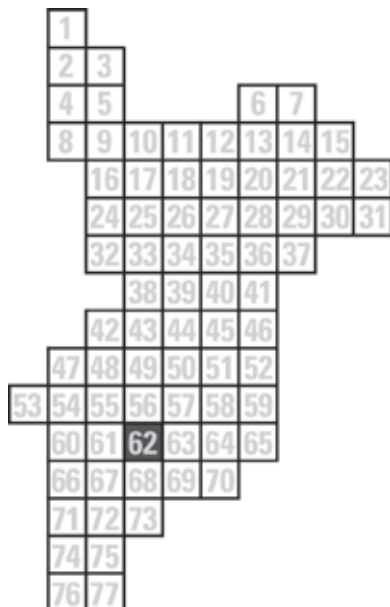
【県内の状況】2019年に君津市において、県内で初めて確認された（シダ会報）。沢沿い林道に面した林縁の崖地に生育している。

【保護対策】林縁崖地の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】学研2016 シダ標準図鑑Ⅰ／平凡社1992 日本の野生植物シダ：54／志村義雄1972 シダ植物生態写真集成：23／シダ会報4(33):17-18

【写真】2020.2.10 君津市 木村研一

(木村研一)



A トネハナヤスリ ハナヤスリ科

Ophioglossum namegatae M.Nishida & Kurita

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】夏緑性（7月頃地上部は枯れる）。根茎は匍匐。草丈は10～25cm。栄養葉は広披針形～卵状三角形、基部はくさび形で1～3cmの長い柄をもつ。コヒロハハナヤスリに類似しているが、栄養葉の柄が長く、胞子は小さく25μm位。葉脈は細かい網目をつくり、二次脈ははっきりしている。河川敷のヨシ原に生育する。[G]

【分布】本州（関東の利根川、江戸川等の河川敷、中部地方の河川敷）にごく稀。利根川河川敷の茨城県取手市で最初に発見された。

【県内の状況】河川敷の開発等で生育地が失われた。江戸川の河川敷のヨシ、オギ群落内で発見された群落もその後の河川開発で消滅した。現在香取市の河川敷のヨシ原内に生育しているが、減少している。

【保護対策】河川敷のヨシ・オギ群落の適切な手入れすることにより環境を維持することが望ましい。また生育地付近の開発は極力避けることが望ましい。

【文献】西田・栗田1969 ハナヤスリ属の新種トネハナヤスリ. 植研44(8): 247-255／斉藤1986 トネハナヤスリを千葉県市川に採る. シダ会報2(67・68): 3-4／斉藤1992 また消えたトネハナヤスリ. シダ会報2(91・92): 4／大場・腰野・木村1995 トネハナヤスリ千葉県に健在. 千資料3(7)／倉田・中池（編）1990 日本のシダ植物図鑑6: 258／岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ: 64／千植誌2003: 6, 18

【写真】1995.5
利根川 村田威夫
(村田威夫)



A アカフユノハナワラビ ハナヤスリ科

2009	
2017	A
2023	A

Botrychium ternatum (Thunb.) Sw. var. *pseudoternatum* (Sahashi) M.Kato

【種の特性】 冬緑性。栄養葉はフユノハナワラビによく似ているが、冬季に紅葉する。フユノハナワラビとアカハナワラビの中間的形質を持つ。両者の分布しているところに見られることが多い。雑種であるとする説もあるが、胞子が正常で、アカハナワラビのゲノムが見られないので、変種として扱う。[G]

【分布】 本州（東北、関東）。伊豆大島。

【県内の状況】 1988年に佐倉市での記録がある。生育状況等の様子が不明で、その後ほとんど生育が確認されなかった。2009年頃から県の北部でアカハナワラビの生育が確認されるようになった。その後、佐倉市、印西市の落葉樹の林床や寺院の境内で、アカハナワラビに混生している本種を確認。いずれの生育地とも個体数はきわめて少ない。

【保護対策】 アカハナワラビとフユノハナワラビの混生する比較的明るい落葉樹林の環境の維持に努める。

【文献】 倉田・中池（編）1994. 日本のシダ植物図鑑 7：247 / 倉俣他 2009. 千葉県植物資料 25：243-245 / 岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：311 / 倉俣武男 2008 下総佐倉シダノート（7）. シダ会報 3(48):20-21 / 佐橋紀男 1983 日本および近隣産ハナヤスリ目の形態学的研究 (8) 伊豆大島産オオハナワラビ属の新分類群. 植物研究雑誌 58:240-247. 岡武利 2001 オオハナワラビ属. 神奈川県植物誌 2001.26-29.

【写真】 2010.3.6 印西市 村田威夫
(村田威夫)



A シチトウハナワラビ ハナヤスリ科

2009	
2017	
2023	A

Botrychium atrovirens (Sahashi) M.Kato

【種の特性】 常緑性。担葉体は短く、軟毛がある。栄養葉辺縁の鋸歯の程度は変化があるが、概ね鈍鋸歯である。栄養葉は翌年の夏にも倒伏することなく新葉が展開した後も残っていることが多い。

【分布】 本州（宮城、石川県以南）・四国・九州・琉球。世界の熱帯・亜熱帯に広く分布。

【県内の状況】 旭市で 1992 年に標本が採集されている。2021 年 10 月に鴨川市でも 1 個体が確認された。鋸南町や市原市における生育の情報もある。県内では極めて稀である。

【保護対策】 自生地の現在の環境を維持することが望ましい。

【文献】 岡武利 2018 ハナヤスリ科. 神奈川県植物誌上巻：20 / 岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：67 / 海老原 2017 日本産シダ植物標準図鑑：293.

【写真】 2021.1.24 鴨川市
谷城勝弘
(谷城勝弘)



A マツバラン マツバラン科

Psilotum nudum P.Beauv.

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】常緑性。根がなく、地下茎は二叉分岐を繰り返し、密生する褐色毛がある。地上茎は緑色で、数回 二叉分岐し、立体的な形状となる。鱗片状の突起を散生する。孢子嚢群は、短い側枝の上につく。樹幹や岩上に生育する。[E]

【分布】本州（宮城・石川県以南）・四国・九州・琉球。世界の熱帯・亜熱帯に広く分布。

【県内の状況】かつては県南部に点々と分布していたが、園芸的に価値が高く乱獲された。また開発等による環境の改変で極めて少なくなった。房総丘陵には大株が見られたが、現在確認されている個体は、小株である。近年県中部、北部の寺院の石上や墓地の石上に生育しているのが発見された。本来の自然の孢子による自生が、または園芸愛好家の栽培品の孢子の飛散による逸出品であるか不明である。あるいは混

在している可能性もある。盆栽等の鉢ものに、突然若い個体が出現することが知られてきた。ヤシ類の移植に着生してきて、生育している個体も確認。

【保護対策】配偶体が地中生で、比較的長く地中生活を維持できるので、かつて生育していた地域は、再生する可能性がある。生育環境を保全することが望ましい。園芸のための採集をしないことが望ましい。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布. 千植誌 1958 : 199-208 / 新千植誌 1975 : 481 / 倉田・中池（編）1987 日本のシダ植物図鑑 5:2-7 / 岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ: 41 / 千植誌 2003 : 1, 17

【写真】2000.8.10 南房総市 谷城勝弘
(村田威夫)



A リュウビンタイ リュウビンタイ科

Angiopteris lygodilfolia Rosenst.

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】常緑性。葉は数枚が叢生し、高さ 3m に達する。葉柄は多肉質で葉身とほぼ同長、径は数 cm に達する。基部に托葉に似た付属物が 1 対ある。葉身は広楕円形で、やわらかいが厚質、2 回羽状複葉。葉脈の中間に鋸歯の底部から下垂する偽脈は辺縁から中肋までの長さの 1/3 程度まで伸びる。多湿な山林の林床に生育する。

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球列島。中国・台湾。

【県内の状況】2017 年に館山市のスギ植林内において、県内で初めて確認された（シダ会報）。その後、周辺地域の谷斜面のスギ植林においても確認された。いずれも葉長 2m 以上の株であった。2019 年の台風 15 号の通過により、一部の株は衰弱したが、現在は生育良好である。各生育地には複数の幼株もみられる。

【保護対策】生育地のスギ林と周辺環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】海老原 2016 シダ標準図鑑Ⅰ、平凡社 1992 日本の野生植物シダ: 71 / シダ会報 4(26):1-2 / シダ会報 4(29):21-23

【写真】2020.7.11 館山市 木村研一
(木村研一)



A ホソバコケシノブ コケシノブ科

Hymenophyllum polyanthos (Sw.) Sw.

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特長】常緑性。根茎は糸状で長く這い、葉柄は3～8cm。葉身は5～15cm、2～3回羽状深裂し、葉質は薄い。胞子嚢群は裂片の先につき、包膜は広卵形で2枚弁状に深裂する。一般的には山地林下の溪流に沿った岩上や崖地に生育、また、樹幹に着生する。[E]

【分布】本州（岩手県以南）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、フィリピン、インドシナ、ジャワ、ボルネオ、ヒマラヤ、アメリカ、南米。

【県内の状況】県内では、清澄山と県内の数ヶ所での生育が知られているのみである。尾根筋近くの、水が湧きコケ植物が生育する場所に生育していた。近年では清澄山での再確認がなされていない。

【保護対策】ホソバコケシノブが属するコケシノブ科の植物は全般に高い空中湿度を必要とし、また、着生する場合が多く生育環境を維持することが特に重要である。

上流域での伐採等での水量の変化でも影響を受ける場合が多い。

【文献】倉田・中池（編）1983 日本のシダ植物図鑑 5:86-93 / 千植誌 2003:9, 20

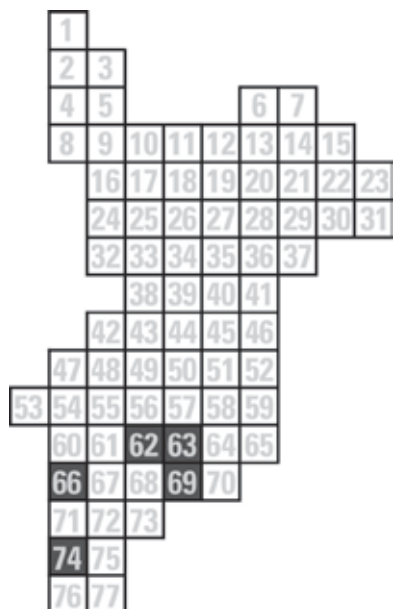
【写真】1951.10.22

元清澄山

標本: CBM BS-66088

（中池敏之／中村建爾 追補

／水野大樹）



A キヨスミコケシノブ コケシノブ科

Hymenophyllum oligosorum Makino

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特長】常緑性。根茎は長く這う。葉柄は0.5～1.0cmで翼はない。葉身は2～3cmでやや広卵形、2回羽状深裂、裏面の軸に褐色の毛がある。胞子嚢群は裂片に頂生し、包膜は二弁状でほぼ円形である。コウヤコケシノブと間違えることもあるが、裂片に鋸歯のないことで区別できる。主に大きなスギの湿った樹幹などにマット状になって生育する。[E]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、台湾。

【県内の状況】現在清澄山のスギの樹幹にわずかに生育している。

【保護対策】生育地と周辺の環境を良好に維持することが望ましい。また大気汚染に弱いので留意する必要がある。

【文献】倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 1:70-74 / 中池 1992 新日本植物誌シダ編:120 / 千植誌 2003:8, 20

【写真】1988.11. 清澄山 谷城勝弘

（中村建爾／水野大樹）



A ウスゲコバノイシカグマ コバノイシカグマ科

2009	
2017	
2023	A

Dennstaedtia scabra (Wall. ex Hook.) T.Moore

【種の特性】常緑性。コバノイシカグマの品種レベルで扱うことが多いが、ほとんど無毛なこと、1mを超えるほど大型なこと、羽片同士の間隔が広いことなど、区別できる要素が多いことから独立の種と考えたい。

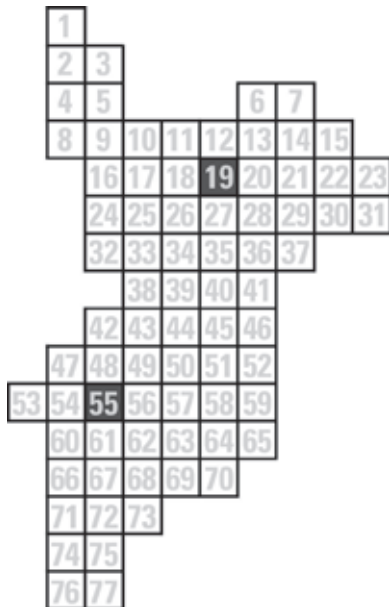
【分布】詳細な分布は不明だが、南紀や四国・中国地方・九州には分布するものと考えられる。

【県内の状況】文献などでは、毛の少ない型と記されているが本県産は無毛に等しく、羽片の間隔の広いコバノイシカグマとは全く異質の物であり、独立種として扱うのが望ましいと考える。個体数が極小であり、十分な保護が必要。

【保護対策】保全保護のため産地は記さない。スギ林下のごく浅い谷にコバノイシカグマ群落の縁に生育する。スギ林床の環境の維持が重要と考えられる。

【文献】海老原 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ 2016 学研／岩槻 日本の野生植物 シダ 1992 平凡社／神奈川県植物誌 2018 上

【写真】2022.3.13
君津市 谷城勝弘
(倉俣武男)



A ウスバイシカグマ コバノイシカグマ科

2009	
2017	
2023	A

Microlepia substrigosa Tagawa

【種の特性】常緑性。イシカグマ・オドリコカグマに近似。根茎の毛は暗褐色、葉は大きく、葉柄だけでも長さ70cmに達する。

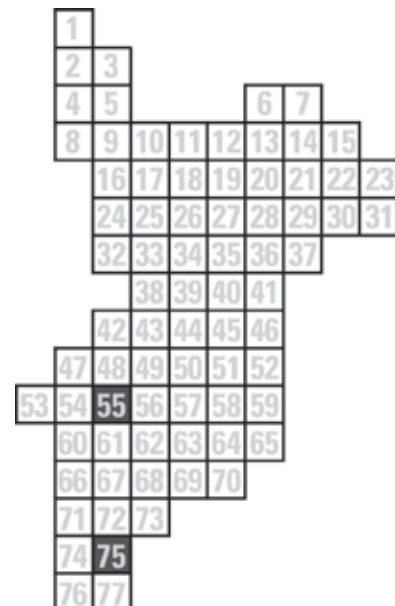
【分布】本州（千葉県・神奈川県・伊豆諸島三宅島）四国（愛媛県・高知県）・九州（南部）・琉球列島・台湾。

【県内の状況】県内産の本種は2016年に君津市で見つかった。その後2017年館山市で谷の斜面一面を覆う群落が見つかった。2021年、未発表であるが富浦町で中規模の群落が見つかった。産地はいずれも開けた陽地斜面である。

【保護対策】明るい山地斜面に群生する性質から、場所の破壊を避けられれば、問題ないと考える。

【文献】海老原 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ 2016 学研／岩槻 日本の野生植物 シダ 1992 平凡社／神奈川県植物誌 2018 上／倉俣 日本シダの会会報 Vol.4 No.40 2022.4／木村・村田・倉俣 日本シダの会会報 Vol. 4 No.29 2018.8

【写真】2019.5.12 君津市鹿野山 谷城勝弘
(倉俣武男)



A オドリコカグマ コバノイシカグマ科

2009	
2017	
2023	A

Microlepia sinostrigosa Ching

【種の特性】常緑性。イシカグマに似るが、葉脈の先端は鋸歯の先端に達せず、包膜の前縁は葉縁よりやや離れている。

【分布】本州（千葉県・神奈川県・伊豆半島）四国（徳島県）・九州・中国。

【県内の状況】千葉県は北限・東限にあたる。県北に最初に見つかったが、その後県南でも点々と見つかった。

【保護対策】生育地はスギ林床であり、その生育環境の維持が重要と考えられる。

【文献】海老原 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ 2016 学研／岩槻 日本の野生植物シダ 1992 平凡社／倉俣 日本シダの会 会報 Vol.4 No.35 2020.8

【写真】（上）2017.12.24 南房総市
谷城勝弘／（下）2018.6.14 南房総市
木村研一

（倉俣武男）



A ハチジョウシダ イノモトソウ科

2009	
2017	
2023	A

Pteris fauriei Hieron.

【種の特性】常緑性。根茎は短く斜上し、葉柄はわら色で、基部に褐色で幅の狭い鱗片がつき、後まで多数残る。葉身は卵状三角形で2回羽状全裂、長さ30～45cm、幅30～40cm。羽片の幅は中部で最も広くなる。葉質は厚い革質。平地～山地の樹林の林床や林縁に生じる。

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球列島。朝鮮・中国・台湾・インドシナ半島。

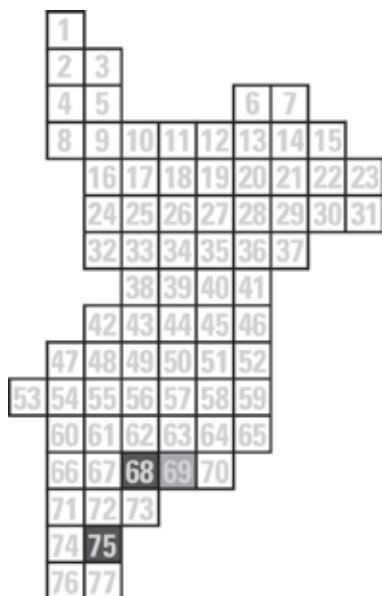
【県内の状況】2019年に館山市のスギ植林において1株が県内で初めて確認された（シダ会報）。その後、2020年に鴨川市でも複数株が確認された。

【保護対策】生育地の樹林地と周辺環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】2016 シダ標準図鑑Ⅰ／平凡社 1992 日本の野生植物シダ：136／保育社 1974 原色日本シダ植物図鑑：59／シダ会報 4(34):11

【写真】2020.10.13 鴨川市 館野太一

（木村研一）



A シシラン イノモトソウ科

2009	X
2017	X
2023	A

Haplopteris flexuosa (Fée) E.H.Crane

【種の特性】常緑性。細長い単葉を密につける。暖地の林の岩上や樹上に下垂して生育している。暖地では大きな群落が見られる。[E]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ヒマラヤ～マレーシア。

【県内の状況】清澄山と神崎町の2ヶ所より記録があった。神崎町では、社殿脇の大クスに着生していたが、落雷により絶滅した。また清澄山についても、40年以上確認されていなかった。2021年南房総市の沢沿いの常緑樹に着生しているのが、発見された。葉長は25cmに達し孢子嚢群をつけた株であった。さらに同年に大多喜町のスギ林のスギの株際に10cmほどの若い個体を確認した。

【保護対策】南房総市の現地は急斜面で人の侵入は、避けられると思われるが、沢全体の環境維持が大切。大多喜町の現地は植林地であり、伐採が心配。さらに林内を調査することで、生育が確認されるかもしれない。房総南部には類似した環境があり、温暖化により、新たに分布が確認される可能性がある。生育環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975：497／倉田・中池（編）1987 日本のシダ植物図鑑 5：752-760. 館野太一 2021 約60年ぶりに千葉県で再発見されたシシラン。シダ会報 4（39）：42－43.

【写真】2021.10 南房総市 館野太一（村田威夫）



A タキシダ イノモトソウ科

2009	A
2017	A
2023	A

Antrophyum obovatum Baker

【種の特性】常緑性。根茎は短く、葉柄は3～6cm。葉身は6～12cm、ひし状楕円形で単葉。たれ下がってつく。山地林下の溪流近くの岩上に着生。生育には空中湿度が必要である。[E]

【分布】本州（千葉県、富山県以西）・四国・九州。台湾、中国、インドシナ、タイ、インド。

【県内の状況】県内でも、そのほかの県においても、タキシダは大きい群落をつくって生育するというのではなく、多くは数株単位で生育している。県内では、県南部に数ヶ所が発見されているが、その内、現在生育が確認されている場所は1ヶ所のみで、ほかの地域では消失してしまった。

【保護対策】タキシダの生育に適した環境を維持することが重要である。環境の変化に敏感であるため、生育している場所だけでなく、広範囲の環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1987 日本のシダ植物図鑑 5：744-747／千植誌 2003：63, 75

【写真】2005 鴨川市 谷城勝弘（中池敏之／中村建爾 追補／水野大樹）



A コタニワタリ チャセンシダ科

Asplenium scolopendrium L.

2009	B
2017	A
2023	A

【種の特性】常緑性。山地の林床で岩壁や岩塊に着生するか、林床で岩屑の広がるような所に生育する。林縁の石垣またはスギ林下の平坦地にも見られる。[H]

【分布】北海道北部・本州（東北、中部、山陰地方）・四国・九州。ロシア、朝鮮、中国、ヨーロッパ、北米。国外では太平洋岸は少ない。

【県内の状況】1969年に県内から初めて報告された。その時の産地である成田市で現在は確認できない。1997年に発見された佐倉市の産地においてもスギ林床の清掃作業（森林育成のため）によって掻きとられて消滅した。2022年5月時点で県内産の生育情報は無い。

【保護対策】スギ林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1982 日本のシダ植物図鑑 2：174-183 / 倉俣 1997 シダ会報 3(10): 8-10 / 千植誌 2003：59, 73

【写真】1995.8 成田市 村田威夫（倉俣武男）



最重要保護
A

A ヌリトラノオ チャセンシダ科

Asplenium normale D. Don

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】常緑性。葉身は披針形で単羽状、全長15～30cm叢生する。葉柄・葉軸は光沢のある紫褐色で和名もこれに基づいている。葉軸の先端に無性芽をつける。[H]

【分布】本州（茨城県以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インドシナ、ヒマラヤ、ポリネシア。

【県内の状況】2008年12月佐倉市で発見された。スギの林床で根元の土の上に直径50cm程の範囲で生育していた。葉長20cm位。葉軸の先端の無性芽は幼体になるほど立派な株である。北限は茨城県御前山村相川（安昌美1978）であるが千葉県ではこれまで未発見であった。その後県南のスギ造林地でも見つかった。

【保護対策】生育地のスギ林を保全することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑 2：100-106 / 神奈川県植物誌 2001

【写真】2008.12. 佐倉市 倉俣武男

（倉俣武男）



A トキワトラノオ チャセンシダ科

Asplenium pekinense Hance

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】常緑性。根茎は短く葉を叢生し、葉身は広披針形で長さ10～20cm、最下羽片は短くなる。葉は2回羽状深裂～全裂で葉質は厚く、深緑色、表面に光沢がある。葉柄鱗片は披針形で褐色～黒褐色、付着点の背面に褐色の毛が密生する。やや日の当たる山地の路傍や岩上、石垣などに生育する。

【分布】本州（岩手県以南）・四国・九州（熊本県・宮崎県以北）・琉球列島（沖縄島）。朝鮮・中国・台湾・南アジア。

【県内の状況】2019年に鴨川市において確認された（シダ会報）。生育地は林道沿いのコンクリート壁に生えたコケ上であった。本種は千葉県植物誌（2003年）や旧版の千葉県植物誌にも記載が無かったが、1952年に清澄で採集されていたことが明らかとなった（国立科学博物館に標本が収蔵されている）。

【保護対策】周辺樹林の伐採等により、生育地が乾燥しすぎないように維持する必要がある。

【文献】神 2016 シダ標準図鑑Ⅰ／平凡社 1992 日本の野生植物シダ：146／シダ会報 4(32):21-22

【写真】2021.8.11 鴨川市 木村研一
(木村研一)



A イワヤシダ イワヤシダ科

Diplaziopsis cavaleriana (H.Christ) C.Christ

2009	B
2017	A
2023	A

【種の特性】夏緑性。根茎は直立、またはやや短く這い、葉柄は30～50cm接近してつき、葉身は50～70cm、1回羽状複葉で頂羽片があり、葉質はやわらかい。一般的には、溪流近くの湿度が高い林床を好む。千葉県の場合はスギ林下のやや平坦地に生育する。[H]

【分布】本州（青森県以南）・四国・九州。中国。日本での分布域は広く、ほぼ全国的に分布するが生育地は限られる。

【県内の状況】県南部の限られた地域にのみ生育している。清澄山では、以前は個体数が多かったが、近年ではスギ林の皆伐により、また、おそらく草食獣がこのシダを食べるために個体数は激減している。

【保護対策】スギ林の生育環境を維持し、動物による摂食から守る方策を講じることが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1983 日本のシダ植物図鑑 3：68-72／千植誌 2003：54, 71

【写真】1986 清澄山 中村建爾
(中池敏之／中村建爾 追補／水野大樹)



A ミゾシダモドキ ヒメシダ科

Thelypteris omeiensis ((Baker) Ching

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】常緑性。根茎は這う。葉柄は20～30cm、葉身は楕円形で30～40cm、2回羽状中裂～深裂、下部の羽片1-2対はたいへん小さくなる。羽軸や葉の表裏に短い毛が多い。孢子嚢群は裂片の中肋寄りにつき包膜がない。山地の沢などに面した林床の湿った斜面や崖地などに生育する。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

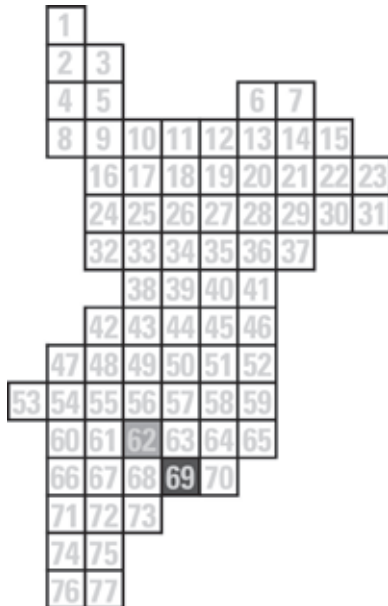
【県内の状況】清澄山の沢筋の小さな崖地に唯一生育しているが、樹木が伐採され日当たりが良くなり、また、風通しなども変わったためか個体数はきわめて少なくなった。

【保護対策】森林の保全が望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1983 日本のシダ植物図鑑 3：6-9／千植誌 2003：26, 41

【写真】1987 清澄山 中村建爾

(中村建爾／
水野大樹)



A ハイコモチシダ シシガシラ科

Woodwardia unigemmata (Makino) Nakai

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】常緑性。葉身は2回羽状深裂、長さは1mを超えることもあり、幅20～50cm、広披針形で鈍頭～鋭尖頭。羽片は線形で羽状に深裂し、辺縁に鋸歯がある。頂羽片はやや明瞭。中軸裏面の上部羽片との接点に1個（まれに数個）の鱗片に包まれた大きな無性芽が付く。山林中の斜面や崖などに生育する。

【分布】本州（千葉県・伊豆半島）・九州（熊本県・鹿児島県）。中国・台湾・南アジア・東南アジア。

【県内の状況】2020年に鴨川市において県内で初めて確認された（シダ会報）。生育地は沢沿い林道の崖地であり、1株のみが生育している。

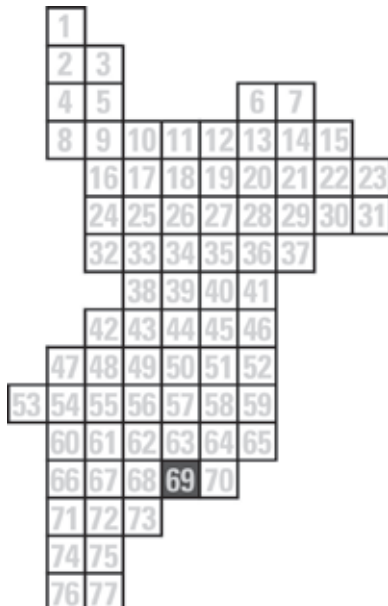
【保護対策】生育地の崖地環境を維持することが望ましい。

【文献】2016 シダ標準図鑑Ⅰ／平凡社 1992 日本の野生植物シダ：156-157／シダ会報 4(37):10-11

【写真】2002.2 鴨川市

木村研一

(木村研一)



A サトメシダ メシダ科

2009	A
2017	A
2023	A

Athyrium deltoideofrons Makino

【種の特性】 夏緑性。根茎は塊状。葉身は葉柄とほぼ同長。小羽片には短い柄がある。包膜の縁は毛状に裂ける。山地の日当たりのよい湿地、小川の縁などに生える。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮南部、中国東部。

【県内の状況】 松戸市での記録がある。1994年に多古町、1995年に東金市で各1株が確認された。両生育地は定期的な刈り取り管理が継続されており、北向きの斜面下方に位置している。斜面下は絞水で常に潤い、湿潤に維持されている。

【保護対策】 生育地とその周辺の環境を良好に維持することが望ましい。過度な刈り取りに注意を払う必要がある。

【文献】 千植誌 1958: 436 / 新千植誌 1958: 487 / 倉田・中池 (編) 1990 日本のシダ植物図鑑 6: 452 / 千植誌 2003: 52 / 千植写真 2005: 331

【写真】 1998.7.25 多古町
谷城勝弘

(谷城勝弘)



A タニイヌワラビ メシダ科

2009	A
2017	A
2023	A

Athyrium otophorum (Miq.) Koidz.

【種の特性】 常緑性。葉は革質で羽軸の表面にははっきりとした刺をもつ。葉柄は紅紫色を帯び、下部に黒褐色の鱗片をつける。[H]

【分布】 本州（千葉県以西）・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 清澄山系の沢沿いに多数個体の生育地がある。近年、県北部の複数の地点（多古町、芝山町、匝瑳市、香取市、印西市、佐倉市、市原市）で確認されているが個体数は少ない。

【保護対策】 生育地と周辺の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 倉田 1961 日本のタニイヌワラビ類 横須賀市博報 6: 238-239 / 谷城 1988 千葉県東部におけるシダ生育地の新知見 千生誌 38(1): 27-28 / 倉田・中池 1990 日本のシダ植物図鑑 6: 556 / 千植誌 2003: 52 / 千植写真 2005: 331

【写真】 1987.12.1 芝山町 谷城勝弘

(谷城勝弘)



A ホソバノコギリシダ メシダ科

Diplazium fauriei H.Christ

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】常緑性。かつてはミヤマノコギリシダの変種とされていた。葉身の幅が狭く、7～10cm、羽片は幅1cmと細い。ソーラスは最下前側の小脈につく。

【分布】本州（千葉県・伊豆諸島・紀伊半島以西）・四国・九州・琉球列島・中国・ベトナム

【県内の状況】千葉県は北限・東限にあたる。県内では県南の一部に見られるのみ。

【保護対策】生育地はスギ林床であり、その生育環境の維持が重要と考えられる。

【文献】神奈川県植物誌 2018 上／海老原 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ 2017 学研／岩槻 日本の野生植物 シダ 1992 平凡社

【写真】2019.9 君津市 村田威夫

（倉俣武男）



A オオバミヤマノコギリシダ メシダ科

Diplazium hayatamae N.Ohta & M.Takamiya

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】常緑性。根茎は長く横走し、狭い間隔で葉をつける。葉柄基部の鱗片はねじれ、包膜は不規則な突起縁になる。

【分布】本州（千葉県・神奈川県以西）・四国・九州・台湾

【県内の状況】千葉県は東限にあたる。県内では県南の一部に見られるのみ。

【保護対策】生育地はスギ林床であり、その生育環境の維持が重要と考えられる。

【文献】神奈川県植物誌 2018 上

【写真】2019.9 君津市 村田威夫

（倉俣武男）



A コクモウクジャク メシダ科

Diplazium virescens Kunze

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】常緑性。根茎はやや長く横走する。葉柄基部に鱗片が密生し、線状披針形で黒色、光沢があり、硬い膜質で、辺縁に刺状の突起がある。葉身は三角形～卵状三角形、2回羽状に複生し、葉質は硬い紙質。孢子嚢群は狭長楕円形で中間生。山地林下のやや湿った場所に生育し、しばしば群生する。

【分布】本州（千葉県以西）・小笠原諸島（父島・母島）・四国・九州・琉球列島。朝鮮（済州島）・中国・台湾・インドシナ半島。

【県内の状況】2018年に君津市のスギ植林内において、県内で初めて確認された（シダ会報）。その後、鴨川市においても小群生地が確認された。

【保護対策】生育地のスギ林と周辺環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】2017 シダ標準図鑑Ⅱ／平凡社 1992 日本の野生植物シダ：254／シダ会報 4(32):18-20

【写真】2021.8.11 君津市 木村研一

（木村研一）



A ヒュウガシダ メシダ科

Diplazium takii Sa.Kurata

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】常緑性。シロヤマシダとコクモウクジャクの間接形として認識された無融合生殖種。シダ標準図鑑では、推定両親種がいずれも無融合生殖型のみしか知られてないことから、現在の所、独立種として掲載されている。コクモウクジャクに類似するが、葉は厚い草質で比較的柔らかい。葉柄基部の鱗片はやや密生し、やや幅広い披針形で、褐色～黒褐色、黒い縁取りが際立つ。辺縁には刺状の突起がある。孢子嚢群は狭長楕円形で中間生。山地林下のやや湿った場所に生育し、しばしば群生する。

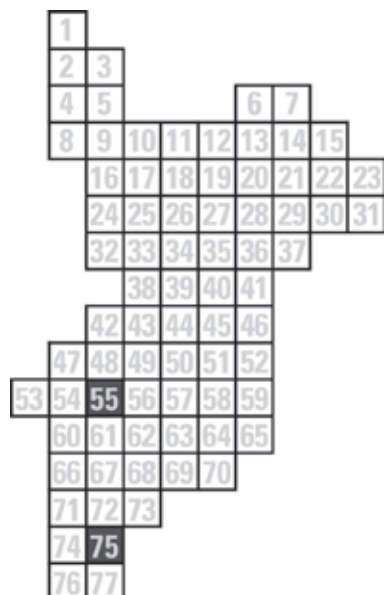
【分布】本州（千葉県以西）・四国（徳島県）・九州・屋久島。

【県内の状況】2016年に南房総市のスギ植林内において小群生地が確認された（シダ会報）。その後、館山市、君津市においても小群生地が確認された。

【保護対策】生育地のスギ林と周辺環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】2017 シダ標準図鑑Ⅱ、シダ会報 4(27):1-2、北陸の植物 10 巻 3 号：68

【写真】2015.3.25 南房総市 木村研一
（木村研一）



A ミドリワラビ メシダ科

Deparia viridifrons (Makino) M. Kato

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】夏緑性。根茎は短く這う。葉は三角形。森林性。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

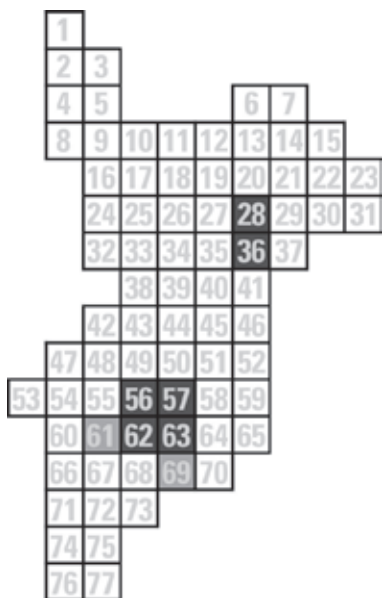
【県内の状況】君津市、南房総市、山武市の採集標本がある。君津市と南房総市の現状は不明。山武市ではスギ林の林道中央部に根茎により繁殖したと思われる1m²程度の群落が確認される。スギ林と林道は放置されてドクダミやフユイチゴが繁茂しはじめている。

【保護対策】生育地と周辺での適度な下草の刈り取りを実施し、生育可能な環境を創出することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：436 / 新千植誌 1958：488 / 倉田・中池（編）1990 日本のシダ植物図鑑 6：852 / 千植誌 2003：55 / 谷城・村田 2004 山武町北東部のシダ植物。千生誌 54(2)：33-44 / 千植写真 2005：332

【写真】1999.8.25 山武市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



A オオヒメワラビモドキ メシダ科

Deparia unifurcata (Baker) M.Kato

2009	
2017	
2023	A

【種の特性】夏緑性。オオヒメワラビ節（岩槻 1992）のシダは他の2種が大型であるのに対し、中型2回羽状深裂、葉質がやや厚めの革質で羽軸・葉軸にまばらに鱗片があり、脱落后その部分はざらつく。

【分布】本州（新潟県以西）・四国・九州・中国・台湾

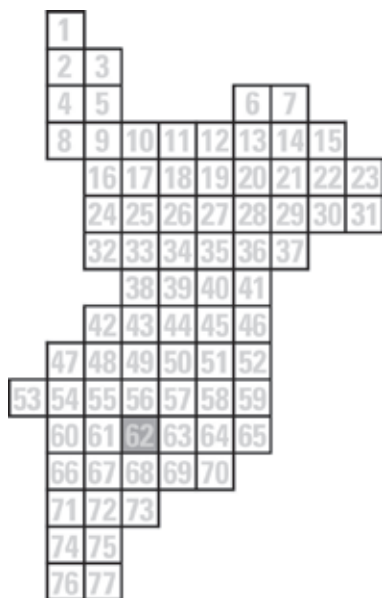
【県内の状況】本県では2020年、県南の某所で発見された（シダ会報）。空中湿度が高い渓谷の岩壁に生育。

【保護対策】人為的な採取より、地形的な崩落が心配される。

【文献】海老原、日本産シダ植物標準図鑑II 2017 学研／岩槻、日本の野生植物 シダ 1992 平凡社／神奈川県植物誌 2018 上／シダ会報 4(36):1

【写真】2020.8.13 県南部 荒井智貴

(倉俣武男)



A タニヘゴ オシダ科

2009	B
2017	A
2023	A

Dryopteris tokyoensis (Makino) C.Ch.

【種の特性】夏緑性。冬期も枯れないこともある。根茎は、短く直立し、葉を叢生する。葉は1m近くなる。葉柄は短く、暗褐色～淡褐色で長さ1.5cm位の鱗片を密につける。葉身は単羽状複生、裂片の葉脈は単生、脈は表面で著しくくぼむ。孢子嚢群は羽片の中肋寄りにつく。包膜はやや長い円腎形。一般的には、落葉広葉樹林の林床のやや陽当たりの良い湿地に生育し、時に群落をつくる。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。全国的に広く分布する。

【県内の状況】県北部の湿地に生育。ハンノキ林のカササゲ群落内に20株ほど見られる。近くには孢子から発生した若い株が多く見られる。現在1ヶ所しか発見

されていないが、県北部での同様な環境での発見が期待される。

【保護対策】タニヘゴの生育には湿地が極めて重要であることから、生育地である湿地の確保が最重要である。開発などに伴う水系や水量の変化には十分に注意を払いたい。

【文献】倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑1：504-510／大場・木村 1998 タニヘゴが白井町で見つかった。千資料 11：77-78／岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：188／千植誌 2003：37, 47

【写真】2018.4.30 多古光湿原 谷城勝弘

（中池敏之／村田威夫 追補）



A ワカナシダ オシダ科

2009	A
2017	A
2023	A

Dryopteris kuratae Nakaike ex Hoshiz. & K.A.Wilson

【種の特性】常緑性。羽片は中裂し、葉の表面の葉脈は凹入する。山地の水湿地や溪流近くの湿った場所を好む。

【分布】本州（群馬県以西）・四国・九州。中国。

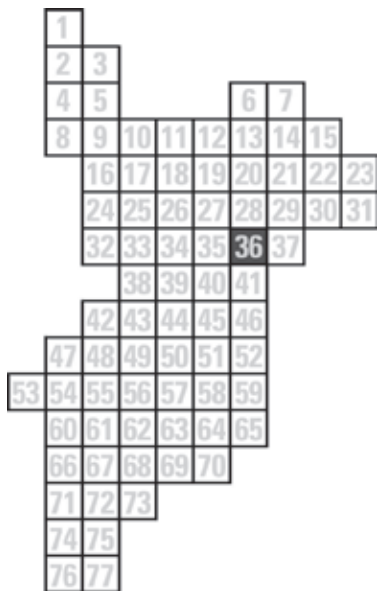
【県内の状況】2001年に山武市で十数株の生育を確認した。生育箇所は北向きのなだらかな斜面の下方のやや低くなった所で、降雨時には多量の水が集まる。生育箇所の周辺ではワカナシダとオクマワラビの雑種イヌワカナシダが2株確認された。

【保護対策】生育地と周辺の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 38／谷城・村田(2004)：山武町北東部のシダ植物。千生誌 54(2)：33-44／千植写真 2005 332

【写真】2001.8.7 山武市 谷城勝弘

（谷城勝弘）



A イヌイワिताチシダ オシダ科

2009	A
2017	A
2023	A

Dryopteris saxifragevaria Nakai

【種の特性】常緑性。イワिताチシダに酷似するが生育環境が異なる。イワिताチシダが岩上を主たる生育地とするのに対し、本種はその多くがスギ林などの林床に生育する。葉柄や葉軸の鱗片の付き方はイワिताチシダに極めて近い。[H]

【分布】北海道、本州、四国（徳島県）、九州（熊本県）。朝鮮。

【県内の状況】2005年佐倉市において県内で初めて確認された。その後2007年に多古町で、2008年には栄町において確認されている。県内の産地は全てスギ林の林床であり、一株ずつしか見つかっていない。多古町にも産し、印西市で2か所確認されている。

【保護対策】生育するスギ林を保全することが望ましい。

【文献】神奈川県植物誌 2001 / 中池 2003 シダの和名辞典 / 倉俣 2006 千葉県初見イヌイワिताチシダ. 千植誌資料 21:170-171 / 宮崎 2007 岐阜県におけるイヌイワिताチシダの新産地. 岐阜県植物研究会誌 23: / 倉俣 2005 下総佐倉シダノート (1) シダ会報 3(41): 19-21

【写真】2007.6 多古町 倉俣武男

(倉俣武男)



A ナチクジャク オシダ科

2009	B
2017	B
2023	A

Dryopteris decipiens (Hook.) Kuntze

【種の特性】常緑性。暖帯山地の林床にやや稀に生育する。葉は長さ 60cmほどになり、単羽状で羽片は浅く切れ込む、葉柄下部に光沢のある黒褐色の鱗片をやや密につける。孢子嚢群は羽片中に散在もしくは中肋寄りに並ぶ。[H]

【分布】本州（千葉、長野、福井県以西）・四国・九州。中国。

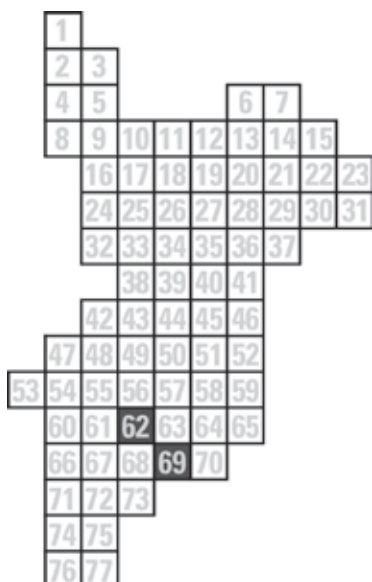
【県内の状況】清澄山系にのみ知られる。個体数は少ない。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 1: 438-443 / 千植誌 2003: 39, 66

【写真】1999.5.22 君津市 谷城勝弘

(倉俣武男)



A ミドリカナワラビ オシダ科

2009	A
2017	A
2023	A

Arachniodes nipponica (Rosenst.) Ohwi

【種の特性】常緑性。葉柄は淡い紅色で下部に鱗片を密生する。葉裏の脈上に毛がある。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。中国、インド。

【県内の状況】香取市で1988年に確認され、次いで1992年には富里市でも確認された。香取市では孢子により繁殖したと思われる複数の個体を確認されたが、後にスギが伐採されて環境が急変して消滅した。富里市の生育地は宅地造成後に放置されて雑木林となった所で数個体の生育があったが、その後は確認されていない。

【保護対策】旧生育地ではその微気候を反映して再び出現する可能性があるため、周辺を含めて生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城 1988 暖地性シダの北限は千葉県北東部 シダ会報 2(74): 3-4 / 折目 1993 富里町の植物 16 / 倉田・中池 (編) 1997 日本のシダ植物図鑑 8: 69 / 千植誌 2003: 50 / 千植写真 2005: 331

【写真】

1998.10.4

香取市

谷城勝弘

(谷城勝弘)



A サカゲイノデ オシダ科

2009	B
2017	A
2023	A

Polystichum retrosopaleaceum (Kodama) Tagawa

【種の特性】夏緑性。葉柄の鱗片は卵形で大型、葉軸の鱗片は下向きに圧着してつく。森林性（山地性）。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】古くは富里市、成田市の記録がある。近年は県北～中部の多古町、芝山町、山武市、佐倉市、野田市、茂原市、君津市などで確認されたが、いずれも1～2個体で非常に少なく、各地で自然消滅している。本種の県内最大の産地は野田市のスギ林であった。10個体以上の大型化したものが生育し、同林内に多産するアスカイノデとの間に複数のゴサクイノデ *P. xgosakui* Kurata, nom. nud. を誕生させていた。後に同林は公園として整備、改変され生育個体は消滅した。

【保護対策】旧生育地にはその微気候を反映して再び出現する可能性があるため、環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 444 / 伊藤 1970 千葉県産イノデ類小記. 千生誌 20(1): 14-24 / 新千植誌 1975: 494 / 倉田・中池 (編) 1997 日本のシダ植物図鑑 8: 77 / 千植誌 2003: 32 /

千植写真
2005: 335

【写真】

1999.11.27

佐倉市

谷城勝弘

(谷城勝弘)



A イズヤブソテツ オシダ科

Cyrtomium atropunctatum Sa.Kurata

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】常緑性。耳片はほとんどない。葉の表面は黒味のある緑色。森林性。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。千葉県は分布の東限及び北限。

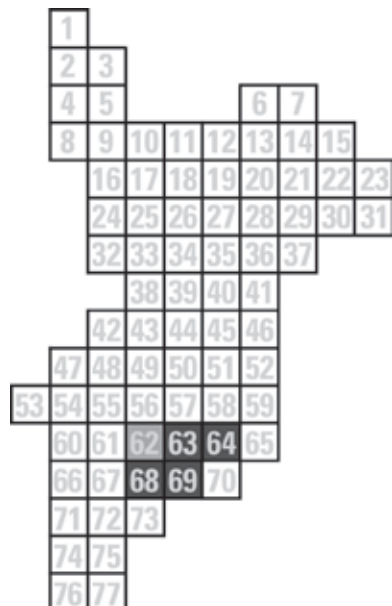
【県内の状況】君津市と鴨川市の標本がある。君津市ではその後確認されていない。鴨川市には2株の良好に成長した個体があったが、ダム建設によって生育地は水没し消滅した。最近では鴨川市で記録。

【保護対策】県南の房総丘陵の沢沿いには、本種の生育可能な環境が残されているので、今後の詳細な調査により再発見の可能性がある。

【文献】倉田・中池（編）1997 日本のシダ植物図鑑 8：70 / 千植誌 2003：34 / 千植写真 2005：328

【写真】2010.1.30 いすみ市 谷城勝弘

（谷城勝弘）



A イワヤナギシダ ウラボシ科

Loxogramme salicifolia (Makino) Makino

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】常緑性。根茎は鱗片をやや密につけ長く横走。単葉で葉身は狭倒披針形（長さ10～20cm、幅1～2cm）である。孢子嚢群は中肋と鋭角に交わって斜上。サジランとは葉柄が緑色であることから区別できる。暖地林の湿った岩上や樹幹に生育する。[E]

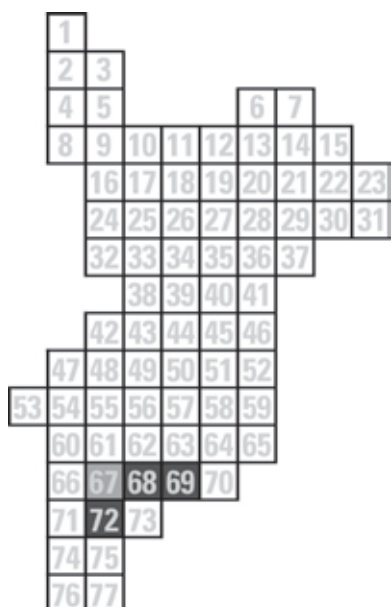
【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。済州島、台湾、中国南部、インドネシア、ヒマラヤ。

【県内の状況】県南部の沢沿いにおいて林内の岩上に生育している。南房総市では、水辺に面した陰湿な崖地に生育している。現在の分布地は数ヶ所と限られている。

【保護対策】陰湿な岩上に生育するので、周辺も含め、広く生育環境を維持することが望ましい。生育地周辺の道路の拡張などは避けることが望ましい。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布. 千植誌 1958: 199-208 / 新千植誌 1975: 497 / 倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑 2: 476-483 / 岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ: 275 / 千植誌 2003: 6374

【写真】1994.7
南房総市 村田威夫
（村田威夫）



A イワオモダカ ウラボシ科

2009	A
2017	A
2023	A

Pyrrosia hastata (Houtt.) Ching

【種の特性】常緑性。根茎は短く這い、葉柄は8～20cm。葉身は5～15cmで葉柄より短く掌状に3～5裂し裏面には茶褐色の星状毛が密生する。山中の岩や樹幹に生育する。[E]

【分布】北海道南部・本州・四国・九州。朝鮮、中国北部。

【県内の状況】県南部に稀産する。ごく狭い場所の岩場にわずかに生えていて、和名のように岩上に生え、葉はオモダカに似る。この内の1地点のものは絶滅した可能性がある。現在、沢沿いの限られた岩上に生育が知られている。

【保護対策】山林の生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑2：624-629／同 1997 日本のシダ植物図鑑8：63／千植誌2003：61, 74

【写真】2020.3 南房総市 村田威夫

(川名興／中村建爾
追補／水野大樹)



A ヤノネシダ ウラボシ科

2009	A
2017	A
2023	A

Lepidomicrosorium buergerianum (Miq.) Ching & K.H.Shing

【種の特性】常緑性。根茎は暗褐色の鱗片を密生し長く這う。単葉で葉身は下部が広く、しばしば不明瞭な耳を生じる。裸葉は狭い三角形形状。実葉は細長い披針形で、岩上や樹幹に這い上がった部分に生じる。孢子囊群は円形～楕円形で散生する。山地の林床を這う。また岩上や樹幹を這い上がる。[Ch]

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】県南部の清澄山から三石山にかけての極限られた地域の、常緑広葉樹と落葉広葉樹の混交林において落葉層が発達している林床に生育している。林床を長く這い、所々で樹上にまで這い上がっている。富津市や市原市の房総丘陵の沢沿いで新たな分布が確認された。

【保護対策】生育条件がデリケートなシダであり、生育している林全体の環境を広く維持することが望ましい。常緑性であるため冬期の草食獣の食害からも守る必要がある。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布／千植誌1958：199-208／新千植誌1975：497／倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑2：518-524／同 1997 日本のシダ植物図鑑8：61／岩槻邦男（編）（1992）日本の野生植物シダ：268-269／千植誌2003：61, 74

【写真】1995.8. 君津市 村田威夫
(村田威夫)



A カラクサシダ ウラボシ科

Pleurosoriopsis makinoi (Maxim. ex Makino) Fomin

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】常緑性。晩夏に芽を出し、翌夏に葉は枯れる。根茎は、長く匍匐し、褐色の毛がある。葉は3～8cmの小型のシダ。葉柄と葉身はほぼ同長。葉身は卵状長楕円形、2回羽状中～深裂。葉質はやや厚い紙質で深緑色。孢子嚢群は裂片の脈上につき、成熟すると葉一面に広がって見える。山地の岩上や樹幹に生育する。[E]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国～シベリア。沖縄県以外の都道府県に記録があるが、生育箇所は少ない。

【県内の状況】県内では、中南部で1996年に生育が確認された。現在他所での発見の情報はない。コケ植物に埋もれて生育しているので、見つけ難いが、今後の調査で、さらに新分布地が知られる可能性がある。

【保護対策】生育している陰湿な岩の状態を保つのみならず、岩のある沢全体広く維持することが望ましい。

【文献】中池 1996 千葉県でカラクサシダを見つけました。シダ会報 3(5): 3-4 / 倉田・中池 (編)

1979 日本のシ

ダ植物図鑑 1:

194-200 / 岩槻

(編) 1992 日本の

野生植物シダ:

126-127 / 千植誌

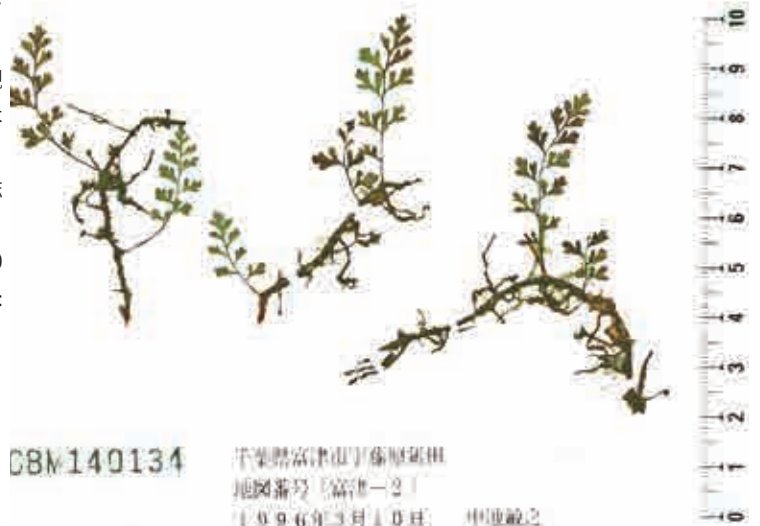
2003: 10,20

【写真】1996.3.10

富津市 標本:

CBM BS-140134

(村田威夫)



A オシャグジデンドラ ウラボシ科

Polypodium fauriei H.Christ

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】冬緑性。根茎は横走する。葉身は5～20cm。押し葉標本にするとゼンマイ状に巻く特長がある。葉の裏面に長い毛がまばらに生える。通常深山の樹幹や岩上に着生する。[E]

【分布】北海道・本州・四国・九州 (中央山地)。朝鮮、ロシア東部。

【県内の状況】本種は2004年に成田市で見つかった。標本は千葉県立中央博物館に保管されている。現在この地がどうい状況にあるか確認していない。2006年、佐倉市で細い農業用水路に隔てられた林縁の斜面最下部に屹立するケヤキの大木に着生していることが確認された。但しこの産地は2018年に千葉県も襲われた異常気象 (高温) により枯死したと思われる。2022年5月の時点で県内の本種の生育情報はない。

【保護対策】着生していたケヤキに同所的に着生するノキシノブの周辺に本種の休眠孢子があることを想定するならば、生育環境の維持・保全が望ましい。林縁の草刈りをしないことを心掛け、大木周辺の湿度を保つ努力が必要である。

【文献】倉田・中

池 (編) 1981 日

本のシダ植物図鑑

2: 550-558 / 倉俣

2006 下総佐倉シダ

ノート (3) シダ会

報 3(44)

【写真】2007.5

佐倉市 倉俣武男

(倉俣武男)



B ミズスギ ヒカゲノカズラ科

2009	B
2017	B
2023	B

Lycopodiella cernua (L.) Pich. Serm

【種の特性】常緑性。匍匐茎は地表を長く這う。所々で分岐し直立した枝を出す。枝の径は3～5mm、茎に葉を密につける。葉は披針形～狭い楕円形で全縁。孢子嚢穂は小枝の先に2個頂生、下向きにつく。山麓の日当たりの良い湿地、または山道や道路に沿った崖地に生育する。[Ch]

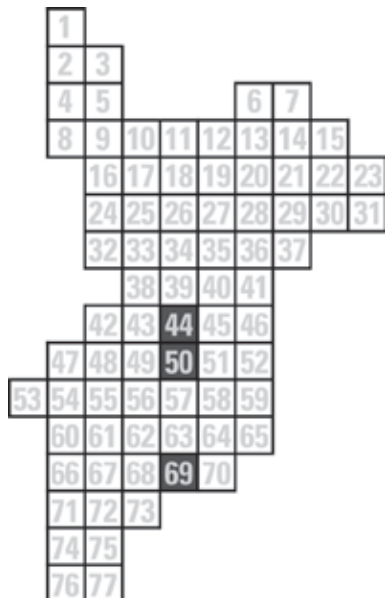
【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球・小笠原。台湾、中国。世界中の亜熱帯から熱帯にかけて広く分布。北海道、東北、関東の内陸部では、温泉地の地熱がある所に分布することが知られている。

【県内の状況】県中部に生育が記録されている。生育地はやや日当たりがよく、冬の季節風の受けにくく地下水がしみ出る崖地。周りにはコモウセンゴケの群落が見られる。

【保護対策】山麓の山道や道路の法面などが、地下水がしみ出る環境を確保するために、崖地の上部の森林環境の保全することが望ましい。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布・千植誌 1958：199-208／倉田・中池（編）1990 日本のシダ植物図鑑 6：16-23／岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：49／千植誌 2003：2, 18

【写真】2000.10. 長柄町 村田威夫
(中池敏之／村田威夫 追補)



B イワヒバ イワヒバ科

2009	B
2017	B
2023	B

Selaginella tamariscina (P.Beauv.) Spring

【種の特性】常緑性。根茎などがからまって仮幹をつくる。草丈は3～20cmで、頂端は一平面に放射状に分岐し葉身状になる。乾くと内側に巻き込む。葉は茎に密に生じ、上面は暗緑色、下面は淡緑色。孢子嚢穂は小枝に1個頂生し、四角柱状。山地や山麓の陰しい岩壁などに生育する。[E]

【分布】北海道（南部）・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、ロシア東部、フィリピン、ジャワ島、タイ、ヒマラヤ。江戸時代から観葉植物として栽培され、たくさんの品種がつくれ愛好者も多い。

【県内の状況】県南部の房総丘陵などの岩壁や岩上などに知られているが減少傾向にある。和名のように岩場の崖などに生育している。昔から愛好者がいて、地元で採集したものを庭先で観賞用に育てている。愛好家による採集によって大きな個体は少なくなった。

【保護対策】生育地の環境を広く維持することが望ましい。採集をしないことが望ましい。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布・千植誌 1958：199-208／新千植誌 1975：482／倉田・中池（編）1990 日本のシダ植物図鑑 6：212-221／同 1997 日本のシダ植物図鑑 8：6／岩槻（編）1992 日本の野生植物シダ：51／千植誌 2003：3, 17

【写真】2005.3
清澄山 谷城勝弘
(川名興／村田威夫 追補)



B アカハナワラビ ハナヤスリ科

2009	B
2017	B
2023	B

Botrychium nipponicum Makino

【種の特性】冬緑性。フユノハナワラビやオオハナワラビによく似ているが、冬季、本種は葉の両面が紅色になることで区別される。里近くや山地の落葉広葉樹林の林床に生育する。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。韓国、中国。

【県内の状況】県中部、北部に限られた地域に生育している。千葉県下で初めての発見は富里市である。他に成田市、柏市などでも確認されているが、近年はほとんど見られなかった。2007年佐倉市において、イヌシデを主体とする落葉樹の林床で個体は小形だが20株ほどの生育が確認された。同じく2007年に流山市でも確認され2008年に印西市で20株ほどの群落が確認されている。近年北総の某所では200個体以上を数える群落が見つかった。



【保護対策】適当に光が差しこむ里山の落葉広葉樹林やスギ林の環境を維持する。

【文献】行方 1953 アカハナワラビについて、シダ会報 1(4): 3-4 / 倉俣 2008 下総佐倉シダノート (7)、シダ会報 3(48): 20-21 / 千植誌 2003: 4, 18

【写真】(右) 2007.10 佐倉市 / (左) 2009.2 印西市 倉俣武男

(倉俣武男)



B アオホラゴケ コケシノブ科

2009	B
2017	B
2023	B

Crepidomanes latealatum (Bosch) Copel.

【種の特性】常緑性。根茎は糸状で黒い密毛がある。葉身は長さ3~10cm。裂片の幅は0.6mmほどで、偽脈がある。山地において林床の谷間の湿った岩壁や岩陰、稀に樹幹上にコケなどと混じって生える。県内における生育環境も同じである。[E]

【分布】本州(秋田県以南)・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インドシナ半島。

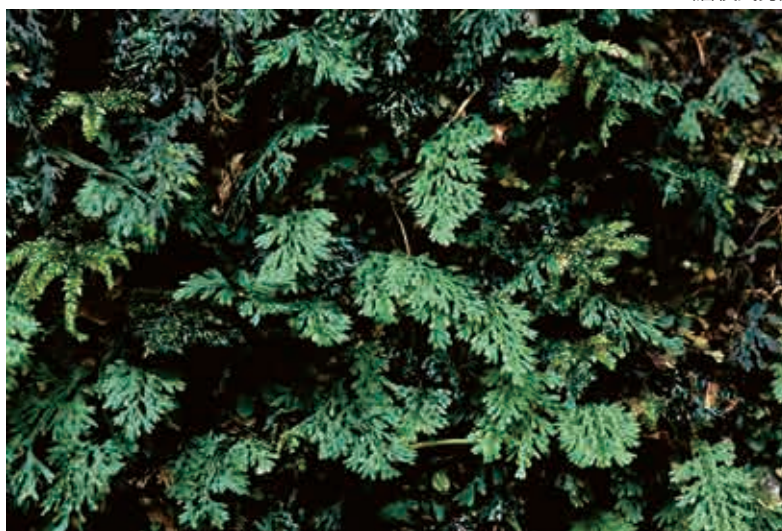
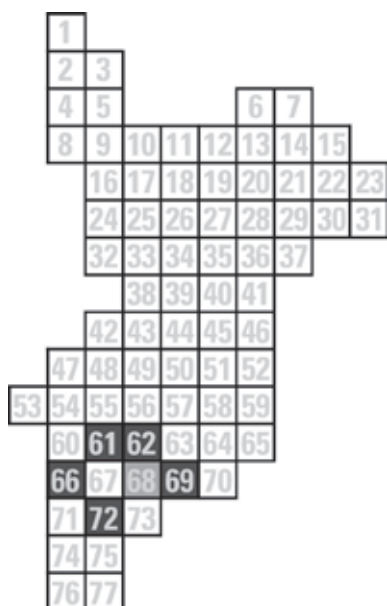
【県内の状況】県南部の山地の林床の湿った岩上に数ヶ所の産地が知られている。鴨川市では照葉樹林の谷間の岩壁などに見られ、マット状に一面に生えている。産地では生育量も多いので減少傾向にはない。2008年南房総市においても確認されている。

【保護対策】照葉樹林の谷筋などの伐採により生育環境が変わらないような配慮が望ましい。

【文献】倉田・中池(編) 1997 日本のシダ植物図鑑 1: 46-55 / 千植誌 2003: 8, 20

【写真】1982.9 清澄山 村田威夫

(倉俣武男)



B デンジソウ デンジソウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Marsilea quadrifolia L.

【種の特性】夏緑性。根茎は泥中を長く横走。葉は長い葉柄をもち水面上に緑色の小葉4枚を十字形につける。孢子嚢果は、葉柄の基部近くから少し上につけ、短い柄をもつ。小葉のつき方が「田」の字に似るのでこの名がある。水田・池沼・池畔に生える水性シダ。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ロシア、インドネシア、ヨーロッパ、北米。全国的に激減している。

【県内の状況】かつては県内各地に広く分布していたが、土地造成などの埋め立てによって、さらに除草剤の使用や、冬期の水田の乾田化などにより激減している。富津市の放棄水田にあったものも土地造成による埋め立てにより消滅した。除草剤の使用の少ない千葉市内の水田では放棄水田になり消滅。冬期に水のある蓮田に見られる。なお、外部形態の

よく似ていて、水中に出来る孢子嚢果の位置が異なるナンゴクデンジソウが県内でも知られてきている。

【保護対策】水田、池など生育環境に限られ、土地造成などにより生育環境が改変されることが生育に大きな影響をもたらす。埋没孢子の再生と、他の湿地植物とを保護することが望まれる。

【文献】行方 1958 千葉県に於ける羊歯植物の分布. 千植誌 1958: 199-208 / 新千植誌 1975: 497 / 倉田・中池 (編) 1987 日本のシダ植物図鑑 5: 778-782 / 岩槻 (編) 1992 日本の野生植物シダ: 283 / 千植誌 2003: 64, 75

【写真】2000.8.24 千葉市 谷城勝弘
(川名興/村田威夫 追補)



B サンショウモ サンショウモ科

2009	B
2017	B
2023	B

Salvinia natans (L.) All.

【種の特性】浮遊性の小型なシダ。茎は水平に伸びて分枝し、葉は3列輪生する。水面に見える浮葉は単葉対生。葉の表面に密に突起があり、裏面には軟毛がある。3列輪生する葉の内、一つは水中葉で細かく枝分かれし、根と間違えやすい。水中葉の基部に孢子嚢群がつく。一年草。[HH]

【分布】本州・四国・九州。アジア、アフリカ、ヨーロッパ。

【県内の状況】かつて県内では、水田に広く分布していたが、冬季田圃の水を抜いてしまう乾田化や除草剤に弱く、激減した。これ以上にも耕作放棄や休耕地が増えたこと。又水田だったところさえも宅地として開発されてしまったことが激減にさらなる拍車をかけたと思われる。現在、減農薬の水田や無農薬栽培を試みる休耕地を復活した水田などに見られる。

【保護対策】生育地の水田では減農薬、無農薬とすることが望ましい。又、今後も耕作を続けて生育地を保全することが望まれる。

【文献】千植誌 2003: 64, 75 / 池畑 2006 写真でわかるシダ図鑑

【写真】2008.11 佐倉市 倉俣武男
(倉俣武男)



B ハマホラシノブ ホングウシダ科

Odontosoria biflora (Kaulf.) C.Chr.

2009	C
2017	B
2023	B

【種の特性】常緑性。根茎は短く、葉柄は6～12cm基部に褐色の鱗片をつける。葉身は10～30cmで卵形、3回羽状複葉。ホラシノブに似ているが、葉質は厚く、裂片は幅広くやや丸みを帯びる。また下部の羽片はあまり短くならない。海岸の岩の割れ目、崖などに生育する。[H]

【分布】本州（関東、東海、近畿地方の太平洋岸沿）・四国・九州・琉球・小笠原。台湾、中国、香港、フィリピン、ミクロネシア。

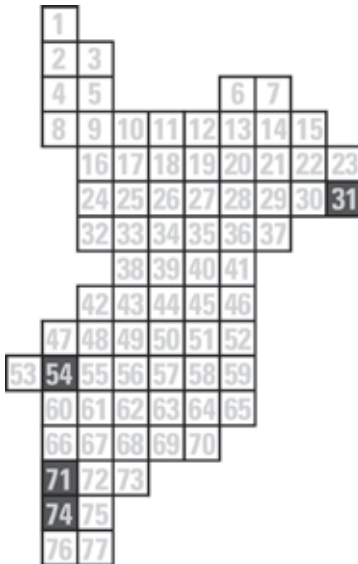
【県内の状況】県内では数ヶ所で知られていて、生育地は限られ、個体数は少ない。その数ヶ所は名のとおり海岸の砂地の崖であり、わずかに生育している。

【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975：487／倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 1：280-284／同 1997 日本のシダ植物図鑑／千植誌 2003：14, 23

【写真】2005.12.23 富津市 谷城勝弘

（川名 興／中村建爾 追補／水野大樹）



B イシカグマ コバノイシカグマ科

Microlepia strigosa (Thunb.) C. Presl

2009	B
2017	B
2023	B

【種の特性】常緑性。根茎はやや長く這い、葉柄は30～50cm。葉身は50～80cm、広披針形、2回羽状複生、羽片は線状披針形で裏面脈状に硬い毛をつける。葉脈はもり上がる。孢子嚢群は小羽片の縁につき外に向いた半円形で無毛の包膜をもつ。一般的に海岸近くの山地の林縁や山道に沿った石垣の石の間に生育することが多い。[H]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球・小笠原。朝鮮、台湾、中国、フィリピン、東南アジア、インド、スリランカ、ニューギニア、ポリネシア。最近、生育が知られていなかった神奈川県においても、本種の生育が確認された。紀伊半島以西においては海岸近くの陽の当たる林縁や石垣などにごく普通に生育している。

【県内の状況】県南部にごく稀に生育しているが、大きな群落をつくることはない。

【保護対策】林縁や山道などの法面をできるだけコンクリートなどで吹き付けないようにし、自然の状態を保つことが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1979 日本のシダ植物図鑑 1：170-178／千植誌 2003：13, 23

【写真】1985.10

館山市 谷城勝弘
（中池敏之／中村建爾
追補／水野大樹）



B イワトラノオ チャセンシダ科

2009	B
2017	B
2023	B

Asplenium tenuicaule Hayata

【種の特性】常緑性。根茎は短く斜上し、葉柄は2～6cmと細く、葉身は2～12cm、広披針形で2回羽状複生。コバノヒノキシダに似ているが葉質は柔らかく小羽片は丸みを帯びている。森林内の溪流付近の湿った岩上などにコケなどと混ざって生育することが多い。[E]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、フィリピン、インドシナ、タイ、ネパール、インド、スリランカ。

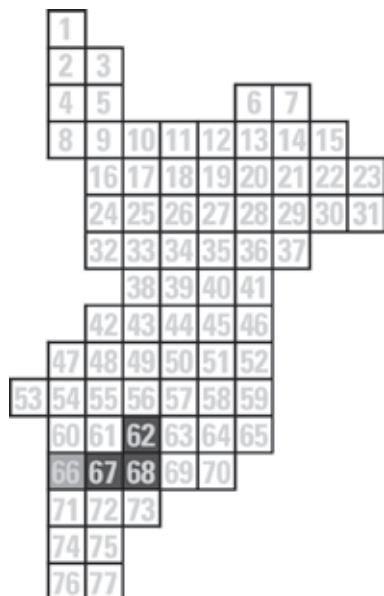
【県内の状況】県南部の山林内に数ヶ所の生育が確認されているが個体数も少なく環境変化による減少が心配される。

【保護対策】森林の保全と生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑 2：226-234／中池 1992 新日本植物誌シダ篇改訂増補版：629／千植誌 2003：50, 73

【写真】2015.11 市原市 村田威夫

（中村建爾／水野大樹）



B コウザキシダ チャセンシダ科

2009	B
2017	B
2023	B

Asplenium ritoense Hayata

【種の特性】常緑性。根茎は短く斜上し、葉を叢生する。葉柄は5～10cm、葉身は15～20cmで三角状披針形3～4回羽状に深裂する。葉質は柔らかく、やや厚い。葉柄基部の鱗片は披針形、暗褐色で格子状である。孢子嚢群は裂片の裏面に1個つき、長めの楕円形である。山地の林床内の岩上に生育する。[E]

【分布】本州（伊豆諸島、千葉県以西）・四国・九州・琉球・小笠原。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】県内では清澄山と県南部の南房総市など数ヶ所の森林内の沢沿いにある岩の壁面において生育が確認されている。

【保護対策】森林の保全と生育環境を維持することが望ましい。

【文献】倉田・中池（編）1981 日本のシダ植物図鑑 2：144-150／千植誌 2003：59, 73

【写真】2020.3 南房総市 村田威夫
（中村建爾／水野大樹 追補）

